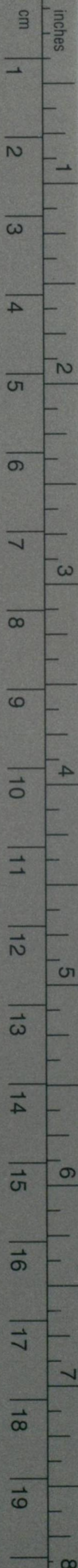


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



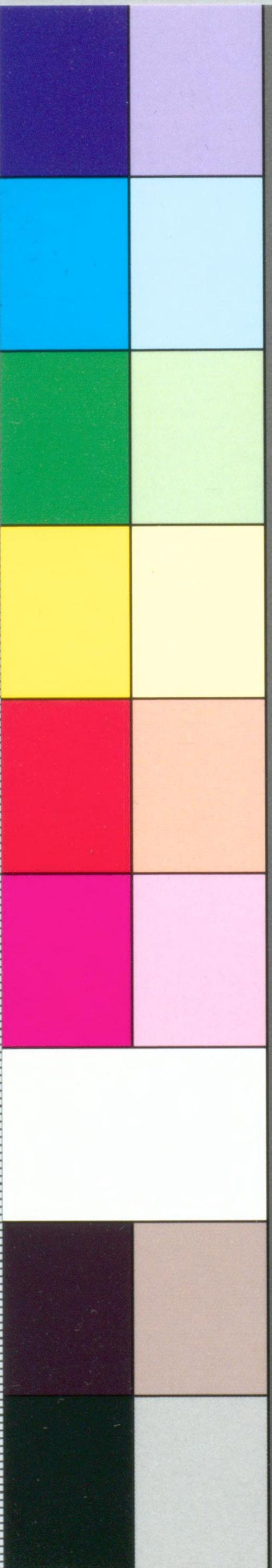
© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



大正十五年十二月刊行

支那沿岸水路誌第三卷追補 第二

水路部

注 意

艦船ニ於テ本追補ヲ受領シタル時ハ左ノ如ク取扱フモノトス

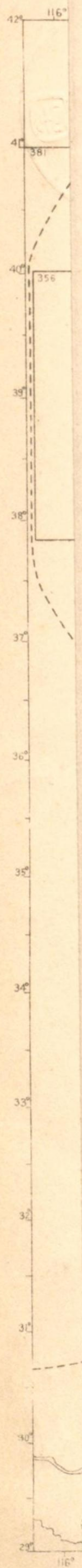
イ、本誌表紙裏ニ必要ナル填記ヲナス

ロ、本誌ノ關係箇所欄外ニ追補ノ關係頁數ヲ鉛筆記入ス

簡單ナル事項ハ本誌ニ直接加筆訂正スルモ差支ナシ

ハ、追補ハ常ニ本誌ノ間ニ挾ミ保管スルヲ要ス

ニ、大正十五年十二月二十日迄ノ水路告示中必要ナルモノハ全部追補中ニ収録セリ



ハ、追補ハ常ニ本誌ノ間ニ挾ミ保管スルヲ要ス

ニ、大正十五年十二月二十日迄ノ水路告示中必要ナルモノハ全部追補中ニ収録セリ

支那沿岸水路誌第三卷追補第二 追加

九頁四行ノ次

秒ニ一閃白光ヲ顯ス第六號挂燈浮標ト稱ス

該挂燈浮標ハ大正十五年十二月四日汽船熊野丸同所航行ノ際流失シ居タリト云フ(一時關係)

四十六頁十二行ノ次

難破船存在 (十五年告第一一九〇項)

左記位置ニ委棄セル Pontoon 或ハ顛覆セル戎克船ラシキモノヲ發見セリト云フ

沙壘田島(曹妃殿島)燈臺ヨリ一三〇度ヲ約十哩

五十七頁八行ノ次

大正十五年十二月一日該燈船ヲ撤去シ同位置ニ「黒塗圓柱浮標」ヲ代置セリ(一時關係)

十一行ヲ左ノ如ク定ム

七十一頁六行ノ次

十三行「要港部」ヲ削除シ十四行「關東都督府」ヲ「關東廳」ニ改ム

八行「四」ヲ「六」ニ改ム

此ノ間ノ海岸星ヶ浦ヨリ長崎及佐世保ニ至ル水底電線アリ

七十三頁一行ノ次

本燈臺ニ霧笛ヲ設置シ霧雪及溟濛ナル天候ニハ毎一分ニ一回吹鳴(吹鳴三十秒)

當分ノ内毎時ノ終リニ於テ十分間休鳴ス(十五年告第一二〇九項)

八十二頁二行ノ次

大連トノ間ニ毎月八回汽船ノ交通アリ

十行十一行ハ當該浮標撤去ニツキ削除ス

八十二頁五行ノ次

左記二箇ノ立標ハ蚶蜆砦(二〇一)ヨリ東方約五鏈ナル紅石礁ヲ標示ス

紅石礁立標 位置 北緯三十九度十五分十秒、東經一二二度三十五分十五秒

樣式 黒塗圓形板頭標附軌條立標、高サ二十呎

紅石礁副立標 位置 紅石礁立標ヨリ三四二度、四鏈

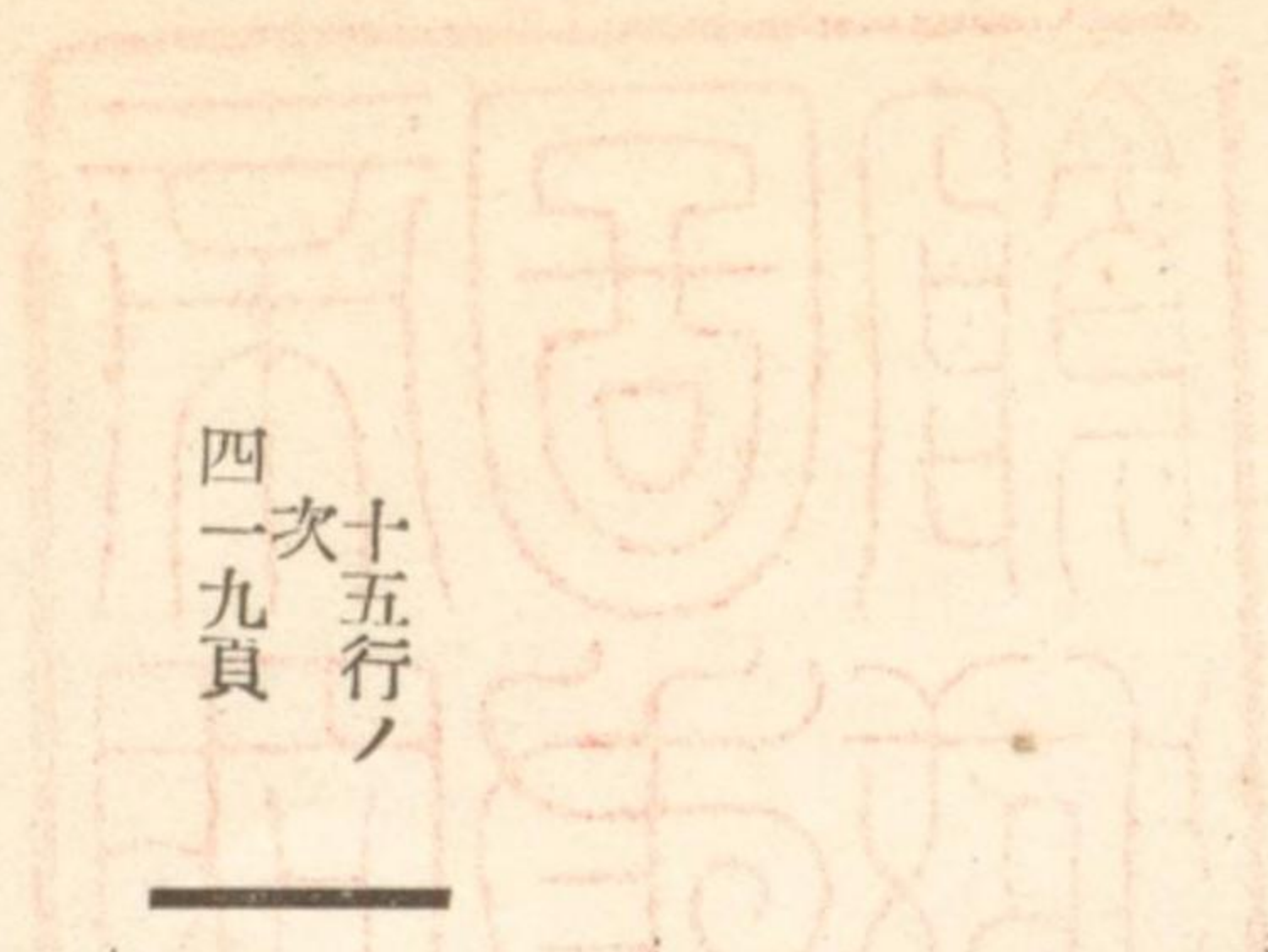
樣式 黒塗柱(木標)立標、高サ十六呎

大正 15. 12. 24 内交

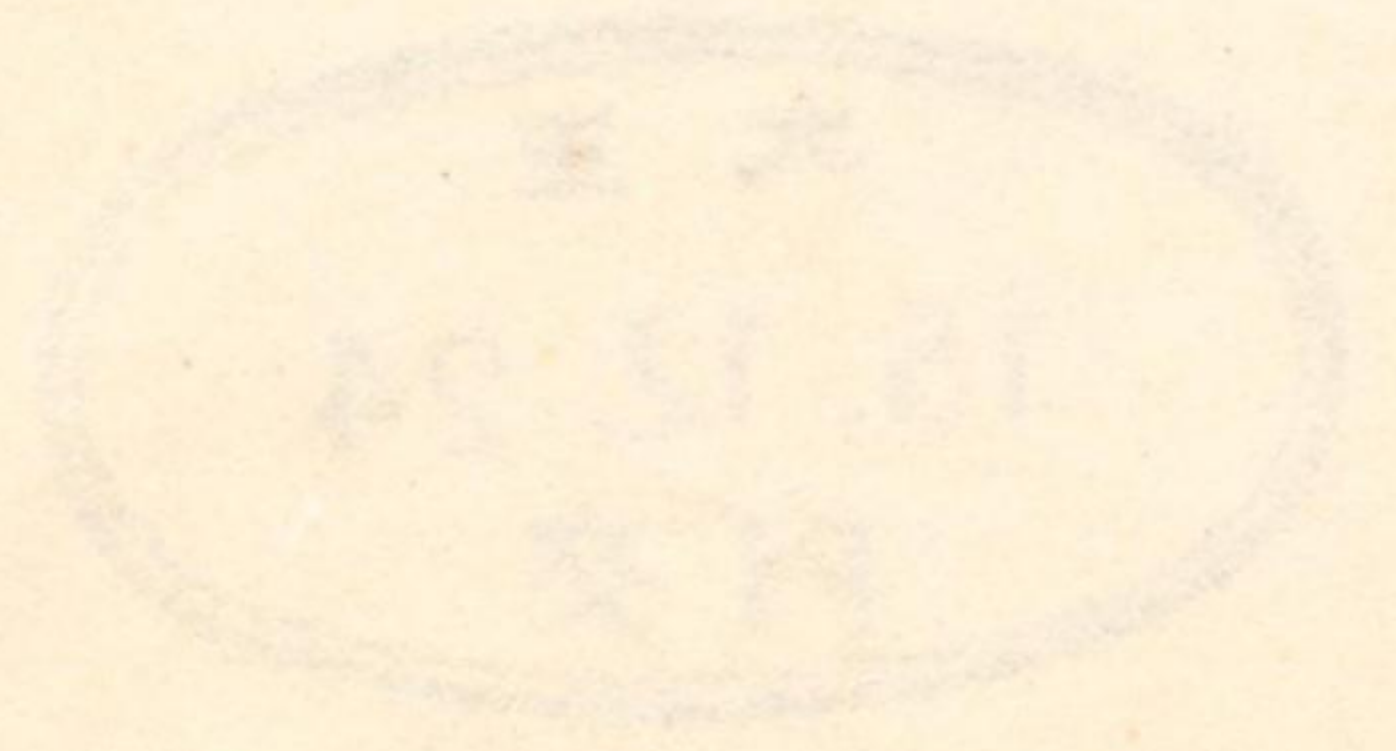
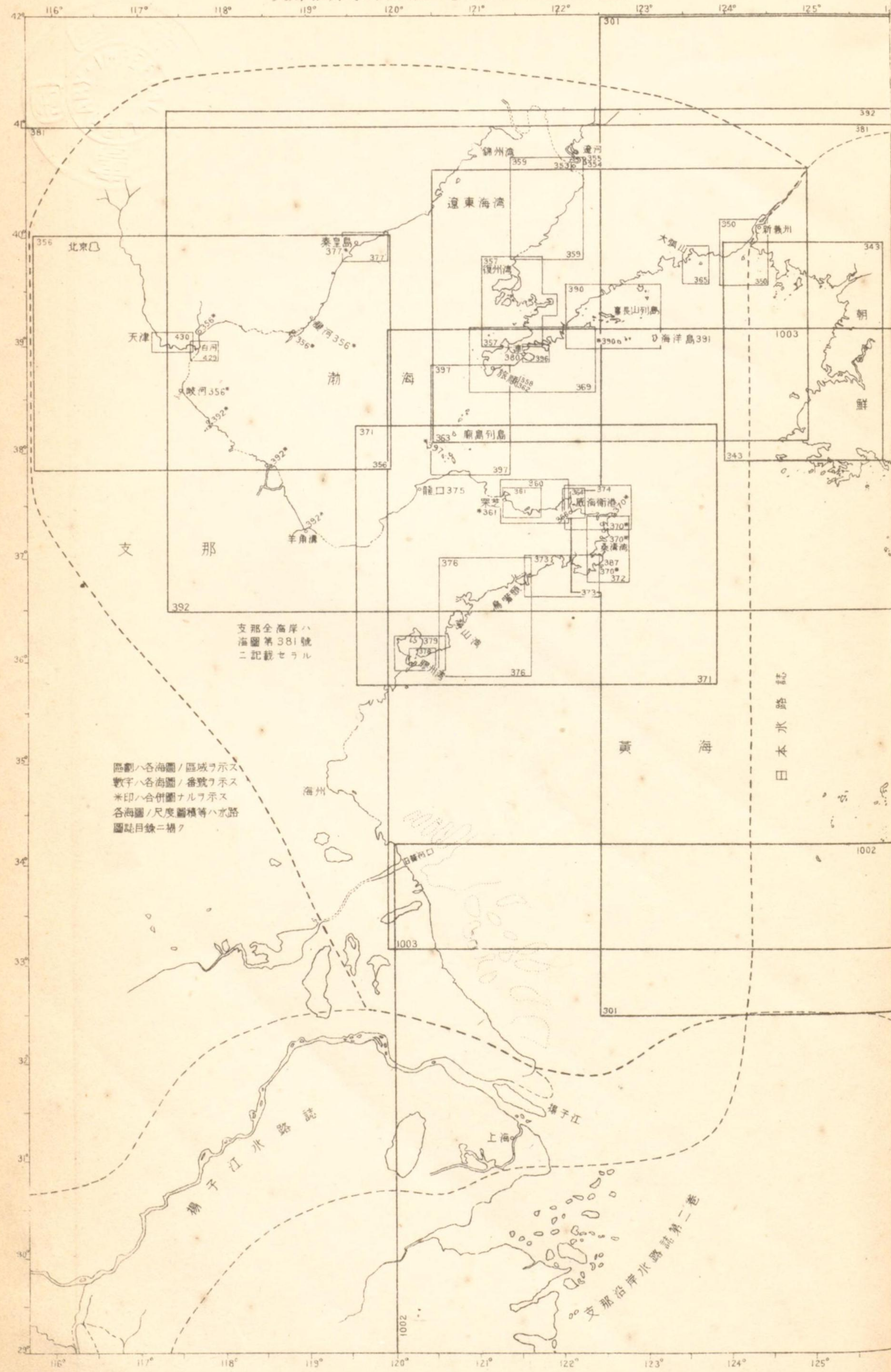
九行ノ次

三六五頁
三六八頁
十二行ノ次

十五行ノ
次
四一九頁



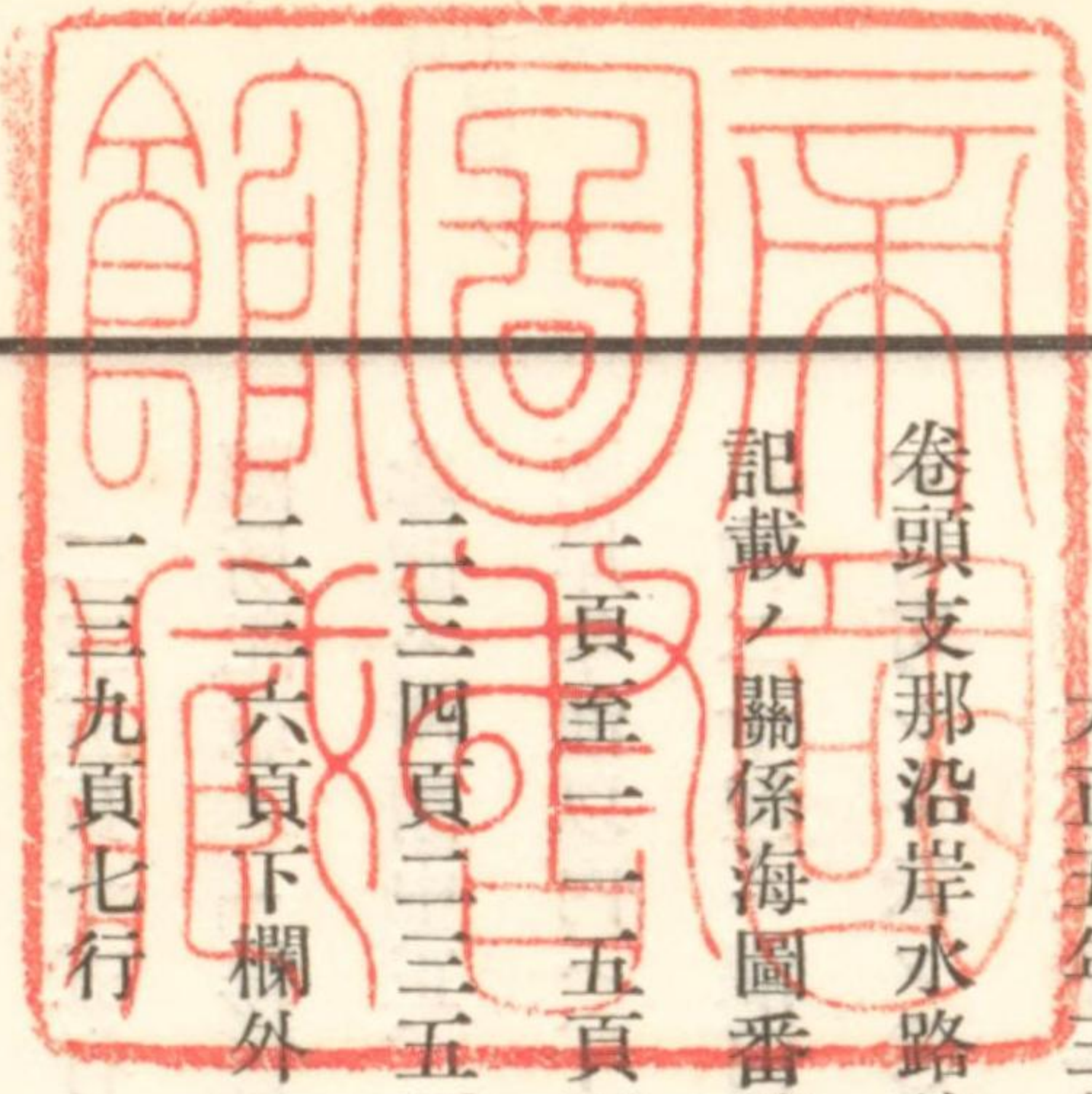
支那沿岸水路誌第三卷關係區域及同海圖索引



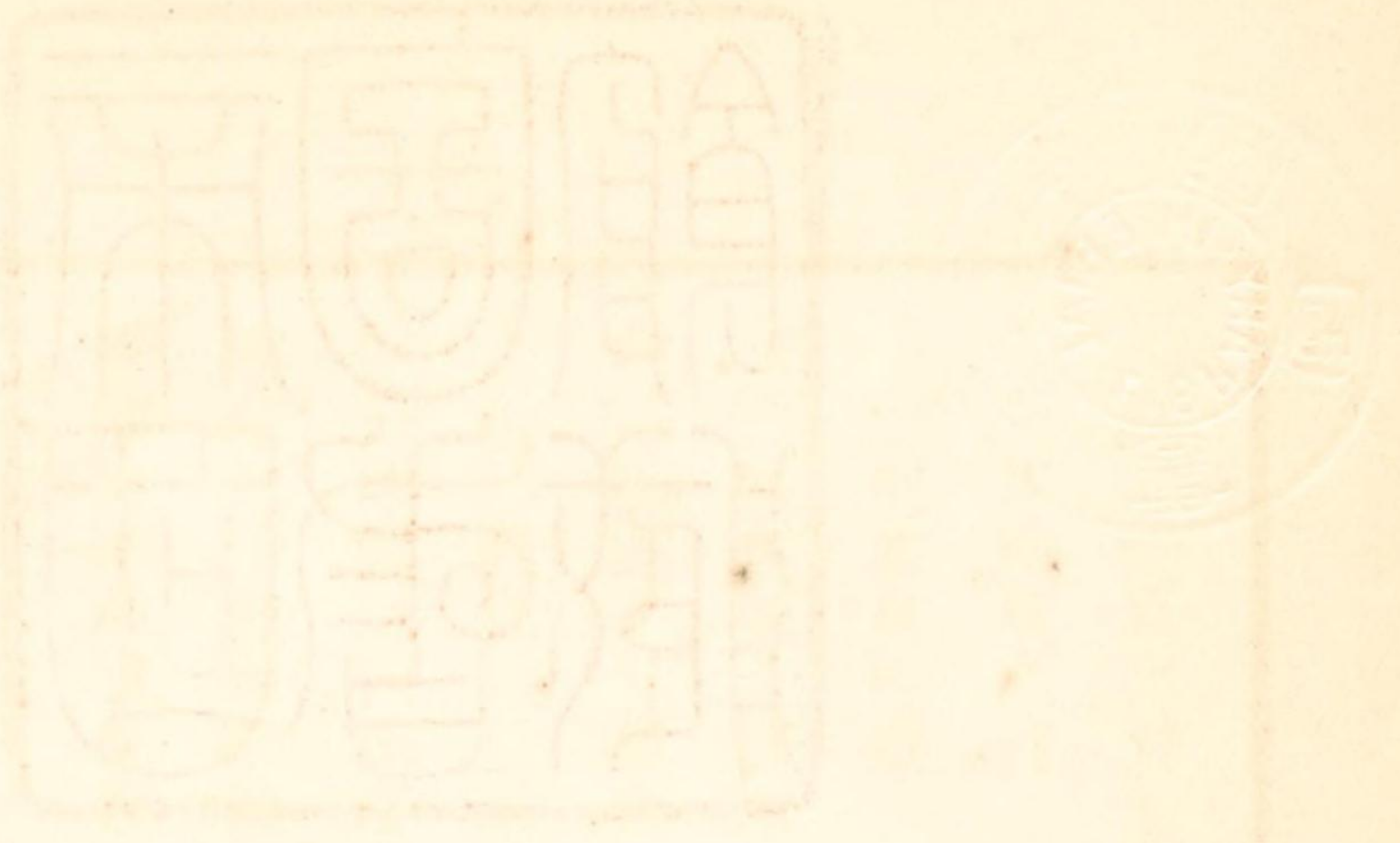
支那沿岸水路誌第三卷追補第二

本追補ハ大正五年二月ヨリ同十五年十月末日迄ノ水路告示及諸報告並其ノ他ノ資料ニ據リ
大正五年三月刊行ノ支那沿岸水路誌第三卷中改補スヘキ條項ヲ列記シタルモノナリ

卷頭支那沿岸水路誌第三卷關係區域及同海圖索引圖ヲ別紙ノ如ク改ム
記載ノ關係海圖番號ヲ左ノ如ク改ム



- 一頁至一五頁下欄外
- 二〇五號ヲ削除ス
- 二三四頁二三五頁下欄外
- 四三一號四三二號ヲ削除ス
- 二五六頁下欄外
- 四三二號ヲ削除ス
- 一四九頁七行
- 六六號ハ三六六號ニ改ム
- 一四九頁四行
- 三六〇號分圖ハ三六一號分圖ニ改ム
- 一五四頁八行
- 同右
- 二二一頁三行
- 四三一號四三二號ヲ削除ス



二二七頁二行

同右

二三一頁八行

四三一號ヲ削除ス

二三四頁十五行

同右

二三五頁十五行

四三二號ヲ削除ス

隨所記載ノ「霧警號」ハ總テ「霧信號」ニ改ム

此間ハ所謂中正、板浦及洛南ノ鹽田ニシテ東陝山西陝山及伊蘆山ヲ除クノ外一望千里ノ平坦地ナリ
距岸半哩以内ハ干出スルモノ、如ク距岸約四哩ニシテ三尋乃至四尋ニ達シ海底淤泥ナリ◎雲臺山ノ南
東約二十哩ニ灌河アリ河口水深ハ最低潮時十五呎乃至二十呎ニシテ吃水十呎未滿ノ船ハ約十哩ヲ遡江
シ得可シト云フ◎灌河口ノ北東方約三哩ニ開山(海山)ト稱スル島アリ顯著ナル目標ナリ◎此沿岸一
帶ハ測量不完全ニシテ地物ノ關係位置ハ圖載ノモノト著シキ相違アリト謂フ注意ヲ要ス

沈船

大沙附近ニシテ舊黃河口ヨリ東方約六十五哩ノ處ニ沈船アリ

某船ノ實驗セル沙尾山島至青島間ノ常用針路ハ左ノ如シ

北航 沙尾山島ノ東方約一哩ノ所ヨリ二度ニ航スルコト三十哩ニシテ三三六度ニ變針シ青島港口ニ向フ

南航 大公島ノ西方五哩ノ處ヨリ一六一度ニ定針ス

右ノ航路ハ吃水廿呎以下ノ船舶ニハ安全ナリト謂フ然レトモ測量不完全ナル海面ナルヲ以テ充分注意警戒ヲ要ス◎此航路ノ大部
分ニ於テハ東偏セラル、ヲ常トスルモ東風強吹ノ時ニハ西偏セラル、コトアリ◎沙尾山島ヨリ大沙ニ至ル海面ハ常ニ溷濁セルモ
東方二十哩ニ至レハ強風後ノ外ハ濁ルコトナシ又大沙、浪沙ノ上ニ於テモ平穩ナル天候續ク時ハ清澄ナルコトアリ◎此航路附近
ノ天候ハ三月四月五月ニ濃霧アル外雨量極メテ少ク天氣良好ナリ、冬季ニ於ケル偏南風ハ霧ヲ伴ヒ其露ル、ヤ偏北疾風ノ來ルヲ

特徴トス

淺灘及沈船

沙尾山島ノ北方約五十九哩、北緯三二度二四分東經一二二度八七分(概位)ニ三尋硬泥ノ一淺灘發
見セラレタリ此淺灘ノ南方約六哩ニ沈船(木造船)アリ◎此附近ニハ此他ニ未如ノ淺灘散在スルモノ
、如シ航海者ハ注意ヲ要ス

海州灣

北方嵐頭山ト南方西連島トノ間ニ開口シ灣口幅二十哩彎入十哩ノ大灣ナレトモ概シテ淺水ニシテ僅ニ

奶奶山ノ外側一湮乃至二湮ノ處ニ三等乃至四等ノ錨他ヲ得ルニ過キス東方ハ全ク開放セルヲ以テ偏東諸風ニハ長濤起ルコト外海ト異ラス◎底質ハ淤泥ニシテ走錨ノ虞アルモ距岸大ナルニ從ヒ爬住力ヲ増スカ如シ◎小船ノ最良錨地ハ西連島ト本陸岸トノ間ニシテ諸風ヲ障蔽スト雖高潮時ニハ長濤浸入スルコトアリ底質細沙ヲ混セル泥土ニシテ錨搔良好ナリ灣ノ北側ニハ嵐頭山及其支脈連リ又南側ニハ雲臺山脈連互スルモ其ノ間ノ海岸ハ一帯ノ平地ニシテ大小數多ノ河川注出ス

臨洪國

下口ノ南五湮ニ於テ海州灣内ニ開口ス河幅^ニ鍾乃至^ハ漲潮ノ初期ニ於テハ流速六節乃至七節ニ達スルコトアリ又偏北風強吹スル時ハ河口ヨリ約十湮間ハ落潮時ニハ風潮相激シ高浪ヲ生シ碇泊危險ナリ◎河ノ兩岸ハ臨興場ト稱スル大鹽田ナリ河口ノ上流ニ新浦ノ村落在リ

氣象

三、四、五、六月ヲ最良ナル天候ノ季トス六月七月ハ雨期ナレトモ雨量極メテ少ク十一月以後ハ曇天多シ◎酷暑ハ七月八月ニシテ酷寒ハ一月二月ナリ寒氣ハ上海ヨリ強シト雖降雪僅少ナリ
春季及冬季ハ偏北風、夏季ハ南東風、秋季ハ偏西風流行スレトモ八月九月ニハ秋風ト稱スル偏東強風

七頁
七行ノ次

流行シ時ニ海上交通ヲ斷ツコト二ヶ月間ニ及フコトアリ

冬季ニ於ケル天候變化ノ狀況概ネ左ノ如シ

偏東風去レハ偏西風來リ偏北風止メハ偏南風起ルヲ例トシ氣壓降下ト共ニ天候靜穩トナリ多ク偏南風ヲ起ス而シテ氣壓下降ノ極ニ達スルヤ風向不定ノ微風トナル而シテ氣壓ノ上昇ヲ示スヤ瞬時ニ積層雲簇起シ雲臺山頭ヲ蔽フニ至レハ除々ニ偏北風勢力ヲ増シ強風ニ變シ三、四日連吹ス斯クテ氣壓ノ降下ト共ニ風勢次第ニ減退シ一兩日ニシテ天候恢復ス◎要スルニ氣壓降下時ノ偏南風ノ強キ程偏北風強吹スルカ如シ

五行ノ次ニ「海州ヨリノ電信線ハ下口ヲ經テ冀州ニ通ス」ヲ加フ

八行「○以下ヲ「嵐山頭ノ南方ニハ數多ノ漁棚アリ」ト改ム

四行「海子嘴」ヲ「大珠山嘴」ニ改ム

十六頁十五行至十七頁一行ヲ左ノ如ク改ム

石嶺子礁ヨリ七九度約一^ノ湮ニ水深五尋ノ孤立岩アリ紅塗浮標ヲ假設ス

十二行「每三十秒ヲ隔テ、三秒間吹鳴ス」ヲ「每二十四秒ニ一回吹鳴ス(吹鳴三秒、休鳴二十一秒)」ニ改ム

八頁

十頁

十四頁

十六頁至十七頁

十七頁

十二行ノ次

水底電線

燈臺ト青島トノ間ニ水底電線ノ連絡アリ

十八頁ノ次

霧信號

燈臺ニ霧笛ヲ備ヘ霧雪其他溟濛ナル天候ニハ每五十秒ニ一回吹鳴ス(吹鳴四秒 休鳴四十六秒)

七行、八行、九行ヲ削除ス

礁上ニ水面上高十四呎ノ立標在リ◎白塗圓筒形頭標附◎紅黑橫線塗方形櫓形鐵骨柱

島上ニ水面上高二十四呎ノ立標アリ◎白塗圓筒形頭標附◎紅黑橫線塗方形櫓形鐵骨柱

十五行ノ次
十九頁ノ次
十一行ノ次
二十頁ノ次

七行「膠州灣口北部」ノ下ニ二字隔テ、「外港」ヲ追加ス

十行十一行ヲ左ノ如ク改ム

游内山燈臺

游内山半島南西端ニ設ク◎不動白光紅、綠光 分弧アリ◎黑白橫線塗八角形煉瓦造◎燈高々潮面上八十二呎◎光

達距離十五湮◎明弧二五三度至二二三度

霧信號

二十一頁

燈臺ニ霧笛ヲ備ヘ霧雪其他溟濛ナル天候ニハ每三十秒ニ一回吹鳴ス(吹鳴三秒 休鳴二十七秒)

五行、十行「Arkona islet」ヲ「青島」ニ改ム

十二行「Arkona islet 燈臺」ヲ「青島燈臺」ニ改ム

十三行「毎四秒ノ閃白光燈」ヲ「明暗紅光明三秒 暗三秒」ト改メ十四行「十湮」ヲ「十五湮」ト改ム

六行ニ「◎棧橋端ニ不動綠燈ヲ點ス」ヲ加ヘ七行「リ但」以下ヲ「レトモ破壊セリ」ト改メ八行ヲ

削除ス

二十二頁

九行「浮標」ヲ「挂燈浮標及浮標」ニ改ム

十行十一行及十二行及十五行削除

灰泉角△(七五)ヨリ二四〇度一、三五〇米ニ紅塗圓錐形鐵造挂燈浮標ヲ碇置ス◎每三秒ニ一閃白光ヲ

發ス◎此浮標ノ北東方約三〇〇米ニ三ノ點灘アリ

青島燈臺ノ一五四度四ノ點ニ黑白橫線塗柱標附紅塗圓錐形鐵造浮標ヲ碇置シ港則ニ依ル投錨禁止區域

ノ西界ヲ示ス

游内山燈臺ヨリ八十度ノ距離一湮一一ノ處ニ紅塗圓錐形浮標ヲ碇置ス

同燈臺ヨリ東方約三、四〇〇米ノ處ニ紅塗圓錐形浮標ヲ碇置ス

同燈臺ヨリ南東方約五五〇米ノ處ニ紅塗浮標ヲ碇置ス

十四行「碇置ス」ヲ「碇置シ青島南西浮標ト稱ス」ニ改ム

一行ヲ削除ス

一九一七年一月ニハ大港小港共ニ堅氷ニ閉サレ内港内ニハ五寸以上ノ結氷アリ船舶ノ出入ニ大困難ヲ生シタルコトアリ◎此場合
ニモ外港ハ全ク結氷セサリシト云フ

五行「十一呎」ヲ「十二呎」ト改メ十一行中「(I)」ヲ「(III)」ト改ム

七行八行削除

十四行十五行削除

一行削除、五行至十行削除

十五行「燈臺」ヲ「挂燈立標」ト改ム

一行「紅黒」ヲ「黒白」ト改ム

二行「ニシテ」ヨリ三行ノ「顯ス」迄ヲ左ノ如ク改ム

二十三頁

十四行ノ次

二十四頁

二十五頁

二十六頁

二十七頁

二十八頁

◎一三七度至一五七度間ハ紅光ヲ顯シ馬蹄礁北端ノ淺瀬ヲ示ス
三行至四行ノ「十一湮半」ヲ「十二湮」ト改ム

挂燈浮標

浪滄島石（馬蹄礁）挂燈立標ノ北西方約二鏈ニ紅塗載頭圓錐形上部格子製鐵造挂燈浮標ヲ設置シ每三秒ニ一閃白光ヲ顯ス第六號挂燈浮標ト稱ス

六行「白」ヲ「黒白」ニ、「圓柱」ヲ「圓錐形」ニ、 $\frac{HR}{O}$ ヲ「(II)」ニ改ム

七行「白」ヲ「紅」ニ、「打鐘」ヲ「挂燈（毎三秒ニ一閃）」ニ、 $\frac{HR}{W}$ ヲ「(6)」ニ改ム

八行「白」ヲ「紅白」ニ、「圓柱」ヲ「圓錐形」ニ、 $\frac{HR}{W}$ ヲ「(I)」ニ改ム

十行「F」ヲ「H」ニ改ム

二十九頁

九行「北防波堤頭ニアリ」ノ次ニ「小港口燈臺ト稱シ」ヲ加ヘ十行「一岩上ニアリ」ノ次ニ「小港
高導燈ト稱シ」ヲ加フ

十三行「堤頭ニアリ」ノ次ニ「小港口南突堤燈臺ト稱シ」ヲ加ヘ「高十八呎」ヲ「高十九呎」ニ改
メ十四行「一五〇度」ヲ「一五八度」ニ改メ「一鏈ニアリ」ノ次ニ「北西航路高燈ト稱シ」ヲ加ヘ

「高二十六呎」ヲ「高三十呎」ニ改ム
 三行「三十」ヲ「二十」ニ改ム
 四行「有ス」以下ヲ「有シTFノ二字ヲ書ス」ト改ム
 九行至十三行ヲ左ノ如ク改ム
 四埠頭アリ其要目左ノ如シ

埠頭	繫船岸壁ノ延長(呎)	水深	記事
第一	二五二六	二十四呎乃至二十九呎	港南側ノ濱岸ヨリ西方ニ延出ス 上屋四棟アリ
第二	三六六六	二十五呎乃至三十呎	第一號埠頭ノ北東方ニアリ相並フ上 屋三棟アリ危險品以外ノ一般貨物ノ 積卸用ニ供ス
第三	五六四	二十呎乃至三十呎	第二埠頭ヨリ更ニ北東方ニ位シ小ナ リ主トシテ危險物並ニ原鹽ノ荷役ニ 使用ス

第四	三八七六	十九呎乃至二十九呎	防波堤ノ外端内側ヲ之ニ當テ專ラ原 鹽、鑛石、石炭ノ藏置及荷役ニ充ツ 百五十噸起重機ノ設備アリ
----	------	-----------	--

此等各埠頭ニハ何レモ鐵道引込線アリテ奥地トノ出入貨物連絡積卸ニ便ス
 第一、第二埠頭ハ共ニ大ニシテ六千噸級船舶合計十二隻ヲ繫留シ得ヘク七箇處ノ上屋ハ合計七、〇〇
 〇坪ニシテ五〇、〇〇〇噸ノ貨物ヲ收容シ得ヘシ
 第四埠頭ニハ六千噸級船舶六隻ヲ繫留シ得ヘシ
 千噸以上ノ船舶ノ出入自由ナル區域ハ右埠頭附近ヲ初トシ總水域ノ二分一ヲ占ム
 ◎港口幅ハ八八五呎
 ニシテ水深二十八呎乃至三十一呎ナリ
 三十五噸及二十二噸ノ浮起重機各一臺アリ
 冬季結氷期ニ入レハ人夫ノ出動尠ク荷役上支障ヲ來スコトアリ◎埠頭繫留船ハ西又ハ北ノ強風以外安
 全ナリ
 從來埋立ノ儘ニテ不完全ナリシ第一埠頭外側岸壁ヲ修築シ一〇、〇〇〇噸級船一隻三、〇〇〇噸級船
 三隻ヲ繫留スル計畫ニテ大正十年起工シ着々進行中ナリシカ大正十一年十二月支那側ニ引繼カレテ以

來工事中止セリ

出入船舶ハ主ニ大港埠頭岸壁ニ繫留シテ荷役ヲ爲スカ故ニ多クノ艀船ヲ要セス唯小港沖荷役ノ場合之ヲ必要トス目下日本型艀船六十乃至八十噸積約十七隻ニ過キス此外支那型艀船十乃至二十噸積約六隻アレトモ盜難轉覆ノ虞多キ爲餘リ使用セラレス

冬季間埠頭ハ其使用頗ル頻繁ナルヲ以テ是カ使用ニ關シテハ豫メ交渉シ置クノ要アリ

埠頭使用料ハトシ×~~...~~×~~...~~×~~...~~（但シ銀一元ハ百分、繫留期間ハ十二時間及其端數）

十五行「浚渫シアリ」ヲ「浚渫セラレタリ」ニ改ム

然レトモ目下此水道及大港内錨地ノ水深ハ急速ニ減少シツ、アリ未タ更ニ浚渫ノ計畫無シト云フ

二行「五湮」ハ「四湮」ニ四行「五十六呎」ハ「四十三呎」ニ「八十六呎」ハ「七十一呎」ニ改ム

六行「不動綠光燈ヲ顯シ」ノ次ニ「光達三湮」ヲ加ヘ七行「顯ス」ヲ「顯シ」ニ改メ「此ノ兩燈ハ」ヲ削除ス

八行、九行ヲ削除ス

十一行ノ「HE 2」ヲ「(1)」ニ、「HE 4」ヲ「(3)」ニ、十二行「HE 1」ヲ「(2)」ニ、「HE 3」ヲ「(4)」ト改ム

三十二頁

七行「冬季ハ」ノ次ニ「偏北風多ク」ヲ「外港泊地ヲ」ノ次ニ「宜シトシ」ヲ「夏季ハ」ノ次ニ「偏南風多ク」ヲ加フ

十行「Arkona islet」ヲ「青島」ニ改ム

水先

青島港ノ水先區ハ外港檢疫錨地ヨリ内港放泊區及大港小港並船渠港ニ於ケル各繫船區ニ至ル間ノ水域トス◎水先規則ニ就キテハ水路誌附錄第一卷ヲ參照スヘシ

水路誌附錄第一卷ヲ參照スヘシ

三十三頁至四十八頁、青島港則ノ條文ヲ削除ス

十二行至十六行削除

青島港ハ大正十二年一月ヲ以テ總テノ行政權ヲ日本ヨリ支那共和國政府ニ還附セリ

二行「青島發電所」ヨリ四行「禁セラル」迄ヲ左ノ如ク改ム

青島棧橋南端ト青島西端トヲ連絡スル直線及其ノ延長線ノ東方海面ニ船舶ノ投錨ヲ禁セラル

目標

五十頁
二行ノ次

四十九頁

十六行ノ次

四十八頁

十五行ノ次

十四行ノ次

橋頂山西方山腹ノ納骨堂(三角形屋根狀ヲ有スル方柱)、發電所ノ大煙突及大港第四埠頭ノ起重機ハ共ニ好目標ナリ殊ニ大煙突ハ空高ク屹立シ極メテ顯著ニシテ蓋シ青島港ニ入航スル船舶ノ最初ニ視認シ得ル建築物ナリ

十二行ノ次

陰島南西方所在ノ灣ヨリ塔埠頭ニ通スル水路ニ就テハ青島小港ヨリ塔埠頭ニ日々運航セル發動機船榮江丸(噸數四十噸、吃水五吹)船長ノ談ニヨレハ水路標識用浮標ハ何レモ存在セサルヲ以テ竹ヲ立テアルモ屢々流失若クハ漁民ノ爲ニ盜去セラル滿潮時ニハ附近一帶海水浸入スルヲ以テ水路ノ識別特ニ困難ナリ海圖第三七九號圖上下流ノ「No.」浮標トR浮標トノ間ハ目下水路通スト云フ

發動機船ハ圖上浮標(17)ノ所迄溯航シ滿潮時戎克船ニテ塔埠頭ニ達ス(約六鐘)支那人ハ干潮時陸行スト云フ(以上大正九年調査)

五十一頁

七行「繁茂シ」ヲ「繁茂ス」ト改メ以下九行ノ「ナリ」迄ヲ削除ス

十行末尾ニ左記ヲ加フ

◎一九二一年ニ於ケル人口ハ支那人六九、八四二、日本人二二、八九三其ノ他ノ外人三七八ナリ

十二行「辨シ得ヘシ」ノ次ニ「殊ニ青島牛肉ハ供給潤澤ナリ」ヲ加フ

五十二頁

十四行「石炭」ヨリ十五行末尾ニ至ル迄ヲ左ノ如ク改ム
石炭ハ常時三、〇〇〇噸乃至一〇、〇〇〇噸ヲ貯藏スレトモ同時ニ二隻以上ヘノ載炭ハ稍困難ナリ◎石炭船ハ二十五噸積ノモノ約三十隻アリ◎「ガソリン」ノ貯藏量ハ約七〇、〇〇〇噸ナリ◎
最初ニ左記ヲ加フ

曳船

當港ニ曳船ノ設備アリ一隻一時間銀六元ナリ

一行ノ次

三〇〇噸船舶ヲ引揚ケ得ル Slip dock 一箇所アリ

二行「アレトモ」ノ次ニ「小修理ノ外」ヲ加フ

五行、六行及七行ノ「天文臺」ヲ「測候所」ト改ム

十行ノ次

氣壓信號

毎日午後一時三十分ヨリ午後二時迄大港見張所信號柱ニ萬國船舶信號ニテ掲揚ス◎氣壓ハ當日午後一時青島測候所ニ於テ觀測シ海面及重力更正ヲ施シタルモノナリ

十二行ノ次

又臺西鎮ノ南西方七十四呎高地ニ四基ノ無線電信柱アリ呼出符XRT波長六〇〇米暴風警報ヲ放送ス

五十二頁十四行至五十三頁一行全文ヲ左ノ如ク改ム

大正十三年度貿易狀況

輸出入貿易總額

一三三、三〇六、九九一海關兩

前年トノ比較、増二割三分

輸出 増三割一分
輸入 増一割八分

支那品ノ外國輸出額

三六、八六五、七八五海關兩

前年トノ比較増四割九分

輸出入貿易噸數

一、五九四、二四九噸

出 九八二、〇七五噸
入 六一二、一七四噸

要之青島ノ貿易ハ逐年順調ニ發達シツ、アリ、十三年ニハ膠濟鐵路ノ貨損稅增徴及甲子動亂ノ影響アリシニ拘ラス前記ノ如キ好況ヲ呈シ特ニ支那品ノ輸出額ガ著シキ増率ヲ示セルハ大ニ注目スベキ點ナリス

主要ノ輸入品ハ棉花、綿絲、石油、人造藍、砂糖、機械器具、小麥粉、綿織物、白米及粳、鐵及軟鋼(古)、燐寸及同材料其ノ他雜貨多數ニシテ輸出品ハ落花生實、落花生油、石炭、生卵、葉煙草、黃色生絲、生牛肉、棉花、麥稈真田(漂白)、下駄材料、山東絹紬、白色生絲、牛脂、牛皮水牛皮等ナリ

三行四行ヲ左ノ如ク改ム

一九一九年ニ於ケル入港船舶ハ一、二七二隻總噸數一、九四四、八五二噸ナリ

七行「達シ」ノ次ニ「夫ヨリ北京、上海及天津等ノ各地ニ通ス又」ヲ加フ

十行「日本郵船會社」ヨリ十二行「定期船アリ」迄ヲ左ノ如ク改ム

近海郵船會社、大阪商船會社及原田汽船會社ノ大阪青島線、大連汽船會社ノ上海青島大連線以上毎月二回、朝鮮郵船會社ノ仁川青島大連線二週一回ノ定期船アリ

霧ニ關シテ左ノ如キ觀測アリ

雨ヲ伴フ霧ハ一般ニ晴レ難シ◎夕方懸リタル霧ハ翌午前九時頃又ハ午後一時頃晴ルレハ良シ然ラサレハ長キヲ例トス◎北ノ風吹來セハ晴レルモ東ノ風ニテハ晴レス◎青島南方後又灣東山ニ霧棚引ク間ハ霧再ヒ襲來スル虞アリ

海員ノ養成補充及其ノ他ノ諸設備

青島冠縣路四十一號地ニ財團法人青島海事協會アリ海員ノ養成補充海員慰藉救濟其ノ他一般海事ニ關スル検査調査鑑定等ヲナス

十五行「回轉」ヲ「閃」ト改ム

一行「九十六呎」ヲ「九十六呎」ニ改ム

四行全文ヲ左ノ如ク改ム

每一分半ニ一回霧笛吹鳴(吹鳴四秒 休鳴一分二十六秒)

沈船

四行ノ次

南東高角燈臺ヨリ七十八度^レ約一湮六ノ處ニ沈船アリ(一九二〇年)

一〇〇頁

三行末尾ニ左記ヲ加フ

◎一暗礁アリ概位青魚灘 (Chingyu Tan) 村落北方(一〇〇)△ヨリ一六六度約一湮五鏈ニシテ大正

十二年十一月汽船永安丸ハ吃水船首九呎二吋船尾十三呎二吋ニテ觸礁セリト云フ

八行「ノ明」ヨリ九行ノ「アリ」迄ヲ「ニ二短閃光ヲ顯ス」ト改メ九行ノ「明弧」ヨリ十二行末尾

迄削除

一〇九頁

一一〇頁
五行ノ次

一九二六年支那各口巡工司告示第八六一號(一時關係)ニ依レハ目下山東高角燈臺ノ霧笛ハ修理中ニ就キ大正十五年八月十五日ヨリ前記ノ通り霧砲ヲ代用セリ

一一九頁

十一行末尾ニ左記ヲ加フ

◎劉公島南方海面ハ一般ニ水深減少シ圖載水深ヨリ三呎乃至四呎淺キ所アリト云フ

一二〇頁

四行「クシテ」ヨリ五行「航ス」迄ヲ「シ」ト改ム

一二一頁

七行「不毛ノ觀ヲ呈ス〇」ヲ削除ス

十一行「シ其」ヨリ十二行「多シ〇」迄ヲ「ス」ト改ム

一二五頁

五行「鐵造」ヨリ六行末尾迄ヲ「石造突堤アリ其先端ハ低潮ニ干出ス」ト改ム

一二九頁

四行至十一行ヲ削除シ左ノ如ク改ム

黃島ノ西方一鏈ノ所ヨリ南東方劉公島鐵造棧橋ノ西方約一^ノ鏈ノ間ニ三箇ノ黒塗圓臺形浮標アリ此等浮標ノ連結線以東ハ淺水地ナリ

十三行「ヨリ」ヨリ「數箇」迄ヲ「附近ニ三箇」ト改ム

十五行削除

一三〇頁

一行二行削除

一三四頁

十四行「同島附近」ヨリ十五行「過キ」迄ヲ削除ス

一三五頁

二行「○深」ヨリ三行末尾迄ヲ削除ス
四行「第一」ヨリ五行「視テ」迄ヲ削除ス

一三七頁
二行ノ次

太古洋行 (Butterfield & Swire Steamship Co.) 及怡和洋行 (Messrs. Jardine Matheson & Co.) ノ各汽船ハ夏季ハ毎週二回冬季ハ毎週一回寄港ス○他ノ主ナル寄港地ハ香港上海芝罘天津等ナリ

三行四行及五行ヲ削除ス

十行至十二行ヲ左ノ如ク改ム

一九一九年ニ於ケル入港船舶五一二隻總噸數八七、五二六噸ナリ○其他ニ四五三五隻ノ載荷支那型帆船出入セリ

一四六頁

十四行「紅黒縦線塗」ヲ「紅塗」ニ改ム

疑位礁

一四七頁
十四行ノ次

芝罘燈臺ノ北方十六湮 (北緯三七度四八分、東經一二一度三〇分) ニ水深四¹/₄尋長約¹/₂鏈ノ岩アリ此岩ハ一九一九年ニ汽船興順丸ノ霧中測深航行中發見セルモノニシテ爾來搜索シタルモ發見スルヲ得サリシ故ニ其位置疑ハシ

一四九頁
一行ノ次

當地ハ往昔海濱ノ一漁村ニ過キサリシモ西曆一八六二年 (我文久二年) 天津條約ニ基キ開港セラレテ以來北支那航路船舶ノ寄港地トシテ將又貨物ノ仲繼港トシテ一時殷賑ヲ極メタルモ輓近大連青島及安東發展ノ影響ヲ受ケ多少衰頽ノ狀アリ

一五〇頁
六行ノ次

防波堤

東防波堤ハ Tower Hill 東端ノ北方一¹/₂鏈ニ起リ三四三度ニ約五七〇米、其ヨリ三二八度ニ約二五〇米アリ○西防波堤 (防波石堤) ハ稅關埠頭ノ西方約六鏈ナル岸壁ヨリ起リ約四〇度ニ九鏈其ヨリ八七度ニ三七〇米ノ長アリ○東防波堤ノ北端ト西防波堤ノ東端トノ間ハ南北ノ闊約一鏈アリ○此等防波堤ニハ其端末ヲ示スタメ挂燈立標ヲ設置シアリ、燈臺表ヲ參照スヘシ

一五一頁

十二行至十五行ヲ削除ス

一五二頁

一行至三行ヲ削除ス

一五四頁

九行「芝罘」ヨリ「沙濱ニアリ」迄ヲ左ノ如ク改ム

芝罘ハ往昔ノ狼煙臺ニシテ烽火ヲ揚ケ倭寇ノ防備ニ任セシ地ナリ支那人間ニ煙臺ト呼ハル其ノ芝罘ナル名稱ハ西北約三湮ノ地點秦始皇帝ノ登臨セシト傳ヘラル、芝罘山及其山麓ノ芝罘村ニ起源ス○市街

一五五頁

Tower Hill (煙臺山)ノ下南西ニ擴カル海濱ニアリ

一行「突堤二箇所」ヲ「棧橋一箇」ト改ム

二行「ヲ有」ヨリ「アリ」迄ヲ「アリ此棧橋側ハ低潮水深二七呎ニシテ淺吃水艇ヲ横着スルヲ得ヘシ」ト改ム

無線電信局

十五行ノ次

市街ノ西方西沙旺ニ設ク○一般通信事務ヲ取扱フ

一五七頁
五行ノ次

此會社ハ容量二十噸ノ水船三隻ヲ有ス又容量一噸以内ノ舢舨約五十隻アリ

九行「舢舨ハ」ノ次ニ「約二〇〇雙アリ」ヲ加フ

「ガソリン」貯藏量ハ約二〇〇噸ナリ

十二行ノ次
一五八頁

一五七頁十四行「一九一三年」ヨリ一五八頁五行末尾迄ヲ左ノ如ク改ム

大正十四年ニ於ケル當地海關純貿易額ハ三三、四四八、二〇四海關兩(前年ヨリ増加セルコト一、三三三、一六〇海關兩)ニシテ其ノ内輸移出額ハ一七、五五九、二二三海關兩(再輸移出額一、八〇〇、三〇三海關兩ヲ含マス)輸移入額一五、八八九、〇八一海關兩差引一、六七〇、〇四二海關兩ノ出超

一七〇頁

一七一頁

一八三頁

一八五頁

ニシテ外國品ノ純輸入額ハ三、九三二、〇七七海關兩ニ過キス尙同年常關貿易ハ六、九六八、三八一海關兩ニ上レリ而シテ從來對日本貿易ハ大連青島等ノ諸港ヲ介シ其ノ他ノ對外貿易ハ上海香港等ヲ經テ行ハル、ヲ常トセルモ十四年ニハ獨逸汽船ニヨル對歐直接貿易開始セラレ落花生ノ輸出ハ益々好況トナリ當地輸出貿易ノ重鎮トナレリ落花生油ノ輸出亦佳良ナリ

主要輸移出品ハ髮網レース、落花生、豆粕、豆素麵、絹紬、果物、藥材、鶏卵等ニシテ輸移入品ハ綿織物(英米產)、綿絲(日印產)、石油(米產)、砂糖、煙草、染料、麥粉、大豆、野蠶繭、軟木材、石炭、鐵類、雜貨等ヲ主トス

當港一般航行章程ニヨル各國出入港船舶ハ大正十四年ニ於テ合計三、二六三隻三、三二三、三二六噸ニシテ内水航行章程ニヨルモノハ同年合計九〇六隻二六九、七六二噸ナリ

十四行「回轉」ヲ「閃」ニ、「三十」ヲ「二十」ト改ム

二行「一分」ヲ「三分」ニ改ム

三行至六行ヲ削除ス

一行「群明」ヨリ二行「秒」迄ヲ「閃白光^{四ノ二秒ヲ隔テ}ト改ム

二行「十」ヲ「二十」ト改ム
 四行五行六行ヲ左ノ如ク改ム

名稱	位	置	樣式
入口浮標	龍口燈臺ヨリ一三三度三 ³ / ₄ 哩		球形頭標附黑塗圓柱浮標
門洲浮標	龍口燈臺ヨリ一二六度四 ¹ / ₄ 哩		右 同
内方浮標	龍口燈臺ヨリ一二四度四 ¹ / ₄ 哩		黑塗圓柱浮標

此等ノ浮標ハ水道變化セハ必要ニ應シ移動ス

一八七頁
 二行「杆、後」ヲ「白塗杆高五十呎、後」ニ、杆」ヲ「紅塗杆高六十呎」ニ改ム
 三行至九行ヲ左ノ如ク改ム

水高ハ風ノ方向及力ニ影響セラルルコト大ナリ偏東風ハ之ヲ高メ偏北風ハ之ヲ低下ス
 一九二三年末ノ調査ニコレハ白河ニ於ケル可航水路ノ水深左ノ如シ

大沽基本水準面以下ノ水深(呎) 普通高潮時ノ水深(呎)

門洲水道	十	十八
Deep Hole 至大沽	十二	二十
大沽至塘沽	十九	二十七
塘沽至第四堀割 (Fourth Cutting)	十三	二十一

天津直路ニ於ケル普通ノ高潮ハ門洲ニ比シ常ニ約一呎高キヲ例トシ吃水十八呎ノ船舶ハ門洲ヲ航過シ
 天津迄溯航スルヲ得ヘシ(一九二三年)

近況及將來

白河口ノ淺洲ハ一九一七年ノ洪水ニ依リ更ニ淺度ヲ加ヘタルニ依リ海河工程局ハ銳意河川ノ整理及浚
 渫ヲ計リ水道ノ恢復ニ努力シタル結果大沽門洲ニ於ケル高潮水深ハ最大十八呎ニ達シタルモ尙水流ノ
 作用ニ依リ河口水道ハ漸次南方ニ移動スルノ傾向アルニ依リ同局ニ於テハ河口南岸ニ突堤ヲ築キ現ニ
 作業中ノ吸込式浚渫船中華丸ノ外ニ鋤簾式浚渫船ヲ以テ河口及大沽門洲ヲ浚渫シ平潮時ニ於テ吃水二
 十呎ノ船舶ノ出入ヲ自由ナラシムルト同時ニ更ニ河口北岸ニ一二〇〇呎ノ堤防ヲ築キ之ヲ繫船岸ト
 シ其背後ノ沙洲地ヲ埋立テ此所ニ棧橋、倉庫、石炭庫等ヲ建築シ尙塘沽ヨリ延長スル鐵道ノ停留場ヲ

モ設クル計畫ナリ故ニ其完成ノ曉ニハ實ニ北支那ニ於ケル通商貿易狀態ニ一大變化ヲ來スニ至ルヘシ
十五行及二二三頁一行削除

十四行ノ次

近年氣候ノ變化ト河身整理ノ影響ヲ受ケ結氷ノ度緩和セリト云フ

碎氷船

一九一三年ヨリ碎氷船三隻ヲ以テ冬期ヲ通シテ白河下流ノ交通ヲ持續セントセリ年ノ寒暖ニ依リ難易
ノ差アレトモ概シテ好成績ニシテ近年ハ殆冬季中ト雖航海ヲ絶ツコトナシ
白河及其河口附近ニ結氷アル時ハ芝罘及大連ニ電報シテ氷ノ狀況ヲ通知ス故ニ冬季大沽ニ向フ船舶ハ
前記何レカノ港ニ立寄り狀況ヲ問ヒ合ス要アリ
白河ノ氷狀ハ更ニ最近ニ至リ其ノ面目一新シ寧結氷ヲ見サル年多ク又結氷スルモ概シテ塘沽ヨリ上流
ニシテ其ノ期間又極メテ短縮セラレタルヲ知ルヘシ海河工程局ハ天津港ヲ人工的不凍港タラシムヘキ
企圖ヲ以テ努力シ現ニ成功シツ、アリト雖現在ノ碎氷力ヲ以テシテハ寒氣特ニ烈シキ年ニ於テハ稀ニ
天津迄全部開通困難ナルコト無キニシモアラス然レトモ塘沽ヨリ大沽錨地迄ハ例年ノ記録ニ依ルニ概
シテ或一時期(例ヘハ東南風連日強吹ノ爲河口内ニ流水ヲ壓入シ破碎セラレタル氷塊流出セスシテ其

二二三頁

ノ間ニ結氷シ作業ヲ無効ナラシムル時又ハ大沽錨地外遠ク結氷シテ船舶ハ大沽錨地ヘサヘモ來航シ得
サル時)ヲ除キ船舶ヲ入港セシメ得ヘシ

大正十四年十二月二十二日第十五驅逐隊ノ報告ニ依レハ白河薄氷アレトモ運航ニ差支無ク當地水先人
ノ談ニ依レハ昨年ヨリ船舶交通ニ支障ヲ來シタル日一日モ無シト云フ

三行四行五行全文ヲ左ノ如ク改ム

白河口附近ノ陸岸ハ屈曲無ク附近一帶ハ鹽田又ハ不毛ノ低濕地ニシテ遠ク海上ヨリ陸岸ヲ望メハ晴天
ノ日ニハ稍々高キ處ヨリ河口附近ノ舊砲臺ニ屬スル白色ノ塹壕堡其ノ他工場建築物航路標識等若干ヲ
認メ得ルノ外茫漠トシテ眼界ヲ遮ルモノ無シ

大沽錨地ニ至ル唯一ノ目標ハ燈船ナリ

汽船鳥羽丸ハ大正十二年三月十九日午前四時三十分大沽燈船ヨリ八度五鐘ノ位置ニ水深九呎ヲ測得
セリト云フ故ニ此ノ門洲ハ沖合ニ擴延セル疑アリ警戒ヲ要ス

十三行「大沽門洲沖」ヨリ十五行「光達距離十一哩」迄ヲ左ノ如ク改ム

大沽門洲沖ニ於テ大沽北砲臺ノ一二度八哩三鐘ノ處ニ碇置ス◎燈質閃白光每十二秒ニ一閃

(閃一ノ秒
暗一ノ秒)

十行ノ次

◎光達十哩、明弧全度◎晝標黒塗球形

四行「回轉」ヲ「閃」ニ改ム

修理ノ爲本燈船ヲ撤去シ代船ヲ置カサルコトアルヘシ

八行九行ヲ左ノ如ク改ム

冬季燈船

冬季燈船撤去中ハ碎氷船ヲ代置シテ燈船ノ用ヲナサシム◎碎氷作業ヲ要スル時ハ該船ハ燈船位置ヲ去ルト雖出來得レハ船舶ノ入港豫定時刻前二、三時迄ハ燈船ノ用ヲ務ム

碎氷船カ燈船位置ニアル時ハ左ノ信號ヲナス

晝間 檣頭ニ黒球ヲ掲ク

夜間 十五分ヲ隔テ、探照燈ヲ五分間照輝ス

密濛天或ハ霧天ノ時航行中ノ船舶ヨリ霧信號ヲ聽ク時ハ一分時ヲ隔テ、銅鑼ヲ打鳴ス

碎氷船トノ信號法

碎氷船ノ援助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ爲スヘシ

晝間 旗ノ下ニ球ヲ二箇掲揚シ汽笛又ハ汽角ヲ連吹ス（長一聲短三聲）
夜間 各六呎ヲ隔ツル三燈（上燈及下燈ハ白光、中央燈ハ紅光）ヲ縦掲シ汽笛又ハ汽角ヲ連吹ス
（長一聲、短三聲）

船舶碎氷船ニ先導セラル、場合此兩者間ノ信號左ノ如シ

短一聲 我右舷ニ變針シツ、アリ

短二聲 我左舷ニ變針シツ、アリ

短三聲 我主機械ヲ反轉ス

長一聲 我先行シテ差支ヘナキヤ

長三聲 汝先行セヨ（先行セル碎氷船ヨリノ信號ナル時ノミ）

長五聲 續行セヨ

後進セヨ

浚渫船ノ信號

太沽門洲又ハ白河ニ於テ作業中ノ浚渫船ニテ掲クル信號左ノ如シ

晝間 浚渫船ノ一舷側ニ黒球一箇ヲ掲クルトキハ其ノ一側ハ通航シ得ヘキヲ示ス
夜間 前記黒球ノ代リニ白燈一箇ヲ掲クルトキハ其ノ一側ハ通航シ得ヘキヲ示ス
紅燈ヲ掲クル舷側ハ通航シ得サルモノトス

浚渫船碇泊中ハ規定ノ碇泊諸燈ヲ點ス

十行至十五行削除

一行至三行削除

天津港

天津港域ハ白河々口大沽門洲水深十二呎線東方三湮沖ヨリ白河ヲ遡リ天津萬國橋ニ至ル延長四十四湮ノ區域トシ其ノ間ヲ大沽沖、塘沽、天津ノ三錨地ニ區劃セララル

天津港則、門洲水道航行規程、Deep Hole 天津間特別運航規程、大沽門洲及白河冬期航行心得

水路誌附録第一卷參照

五行最初ヨリ十行「外方錨地ト稱ス」迄ヲ左ノ如ク改ム

大沽錨地ハ天津港ノ一部ニシテ港則ニ依ル限界ハ大沽門洲水深十二呎線ヨリ東方三湮ノ沖合迄ノ區域

ナリ一燈船ノ外設備無ク風浪ニ對スル遮護絶無ニシテ天津塘沽ニ入港シ得サル吃水大ナル大型船舶又ハ門洲ヲ通過セントシテ潮待チスル船舶ノ錨地ナリ

河口ヲ距ル約十湮ニ設置スル大沽燈船附近ヨリ以東四尋乃至五尋ノ錨地ヲ普通一般船舶ノ泊地トスルモ天候氷狀等ノ許ス限リ錨地トシテ廣サニ制限無キヲ以テ如何ナル大艦隊大船團ト雖錨泊（單錨）ニ難カラス燈船ヨリ東方少クトモ十湮ノ範圍内ハ概シテ七尋八尋ノ淺海ニシテ底質軟泥錨搔キ良好ナリ白河口附近陸岸ハ軟土ニシテ石塊ヲ有セス延テ海底モ遠ク沖合迄硬質ノ危險物絶無ニシテ從テ船舶ハ坐洲スルモ直接ノ損傷殆ト無シ

門洲ヲ通過セントシテ潮待チスル船舶ハ大沽燈船ヨリ以西二六四度ノ線以北ニ於テ投錨スヘシ然レトモ大沽門洲導標ヲ隱蔽シ或ハ航路又ハ浚渫工事ノ妨害トナル位置ニ投錨スヘカラス◎大沽錨地ハ夜間ノ入港容易ナリ

十三行最初ヨリ十四行「是ナリ○」迄ヲ削除ス

渤海ハ一般ニ十五尋以内ノ淺海ナルヲ以テ風ノ爲波浪ヲ誘起シ易ク強風ニ對スル海面ノ影響ハ鋭敏且至大ニシテ時ニ荷役ノ實施ヲシテ直ニ不可能ナラシム然レトモ又其ノ靜止モ甚タ速ナリ偏南風及偏東

風特ニ南東風ハ海面ノ開放ト潮汐ノ去來方向ニ一致スル關係上波浪高ク風力四以上ニ達セハ荷役頗ル困難ニシテ三ノ風力ニテモ一日二日連吹スルトキハ又同様ノ状態ヲ呈スト云フ之ニ反シ北西風及西風ハ比較的波浪小ニシテ風止ミテ約四時間モ經過セハ平靜ニ歸ス

當錨地ニ於ケル荷役能力ハ船舶及季節ニヨリ差異アレトモ一日晝間ニ於ケル平均荷役能力左ノ如シ

機械類 三〇〇乃至六〇〇噸

枕木 一〇、〇〇〇本

雜貨 六〇〇乃至八〇〇噸

當錨地ニテハ普通夜荷役ヲナス習慣アリ是荒天ニ見舞ハル、ヲ虞レ又遡江船ハ潮時ヲ失フヲ虞ル、カ故ナリ

當方面ニ多數ノ舢舨アリ主トシテ大沽沖荷役ニ使用セラレ各重量三〇〇乃至八〇〇噸ノ貨物積載力ヲ有シ鐵船ニシテ構造極メテ堅牢ナリ概ネ二噸乃至五噸捲起重機ノ設備アリ舢舨ハ大多數駁船公司 (Taku Tug & Lighter Co.) 及太古洋行 (Butterfield & Swire Co.) ニ屬シ主トシテ兩社ノ獨占約經營ナリ

當錨地ニ於テ炭水ノ補給ハ不可能ナリ糧食品ハ塘沽又ハ天津ヨリ曳船ニ搭載シ來リ當地碇泊船舶ニ供

給ス

支那官憲及各汽船會社、駁船公司等ハ三十乃至五十噸内外ノ汽艇及其以上ノ大型曳船ヲ有シ當地碇泊船舶ト塘沽、天津等トノ間ニ旅客及貨物ノ輸送ヲナス

五行六行七行削除

九行「大沽外方錨地」ヲ「大沽錨地」ニ改ム

沈船 投錨警戒

大沽燈船ヨリ二七一度九鏈ノ處ニ沈船アリ大低潮時沈船上ノ水深十一呎ナリト云フ

又左記ノ入口挂燈浮標ヨリ一八九度_二約五鏈ノ處ニモ一沈船アリ

大沽燈船ト入口挂燈浮標トノ一線以南ハ投錨セサルヲ要ス(一九二六年)

十一行「每八秒」ヨリ十二行末尾迄ヲ左ノ如ク改ム

閃白光、每三秒ニ一閃光(閃_三秒 暗_二秒)ヲ顯ハス

五行「北堆」ヨリ六行「ナル」迄ヲ「門洲導燈(低)ノ東方七鏈」ニ改ム

大沽門洲導燈

二一七頁
八行ノ次

二一八頁

十一行ノ
次

低燈（前燈） 北砲臺信號竿ノ南方約一哩二鏈ニ設ク ◎ 黒塗球形書標附黒塗框式鐵造立標 ◎ 閃白光

セ/秒ヲ隔テ
三/秒ノ一閃

◎ 燈高四十六呎 ◎ 光達距離十二哩

高燈（後燈） 低燈ヨリ二八四度約八鏈ニ設ク ◎ 黒塗球形書標附黒塗框式鐵造立標 ◎ 明暗白光 明二秒
暗二秒

◎ 燈高八十呎 ◎ 明弧二六九度至三一四度 ◎ 光達距離十五哩

此二燈ヲ一線ニ望メハ大沽門洲ヲ經テ水道ニ導ク

South Dike 挂燈立標

白河口右岸ニ築設セラレタル石堤ノ東端ヲ標示スルタメ設置シタルモノニシテ大沽門洲導燈（前）ヨ
リ一〇三度五^分。鏈ニ在リ不動綠光ヲ顯ハス ◎ 明弧ハ一九二度至三〇四度 ◎ 光達距離一哩

十二行至二一九頁二行ヲ削除ス

四行至十一行ヲ左ノ如ク改ム

河ヲ出入スル際 Spit Lighthouse ヲ繞航スル轉針點ヲ示明スル導標アリ其轉針點ヨリ河口導標ハ三三
〇度ニ、大沽門洲導燈ハ二八四度ニ當ル ◎ 南石堤ノ外端ハ門洲指導線ト出航轉針點トノ交叉點ニ在リ
十二行至十五行削除

一行至五行削除

白河口外針路法

外方ヨリ大沽門洲ヲ航過センニハ海圖第四二九號ニ示スカ如ク入口挂燈浮標（Entrance buoy）ニ極メ
テ接航シ大沽門洲導燈（Taku bar leading marks）ヲ一線二八四度ニ視ル如ク向針スレハ水道ノ中央
ヲ航進シ得ヘシ次テ北堆嘴燈船（Spit Lighthouse）ヲ繞航シ河口導標（River mouth leading marks）ヲ
一線三三〇度ニ向針シ河口ニ達スルヲ得 ◎ 兩導標ハ共ニ明瞭ニシテ中間ニ船舶無キ限り遠望スルヲ得
◎ 水道ノ幅ハ導標一線ヲ基準トシテ一五〇呎ノ間隔ヲ有スル如ク浚渫セラレツ、アリシモ其ノ兩側各
十呎ヲ自然堀下シ現在ハ一七〇呎ヲ有ス

針路法ヲ示スコト右ノ如シト雖水深ノ變化計リ難キヲ以テ水先人ヲ雇傭スルヲ宜シトス

投錨ニ關スル警戒

一九一六年七月ニ一汽船ハ白河口外 Spit Lighthouse ノ東南東方約三鏈、北砲臺信號柱ヲ三二七度一
哩六^分。鏈ニ見ル處ニ於テ潮待チノ爲メ投錨シタルニ拔錨ノ際錨ニ水底電線ヲ拘束シタルコトアリト云
フ元來此水底電線ハ門洲上ノ淺キ泥堆上ニ敷設セラレタルモ何等カノ原因ニ因リ水路中ニ移動シ來レ

ルモノナラント云フ白河航行ノ船舶ハ投錨ノ際警戒ヲ要ス

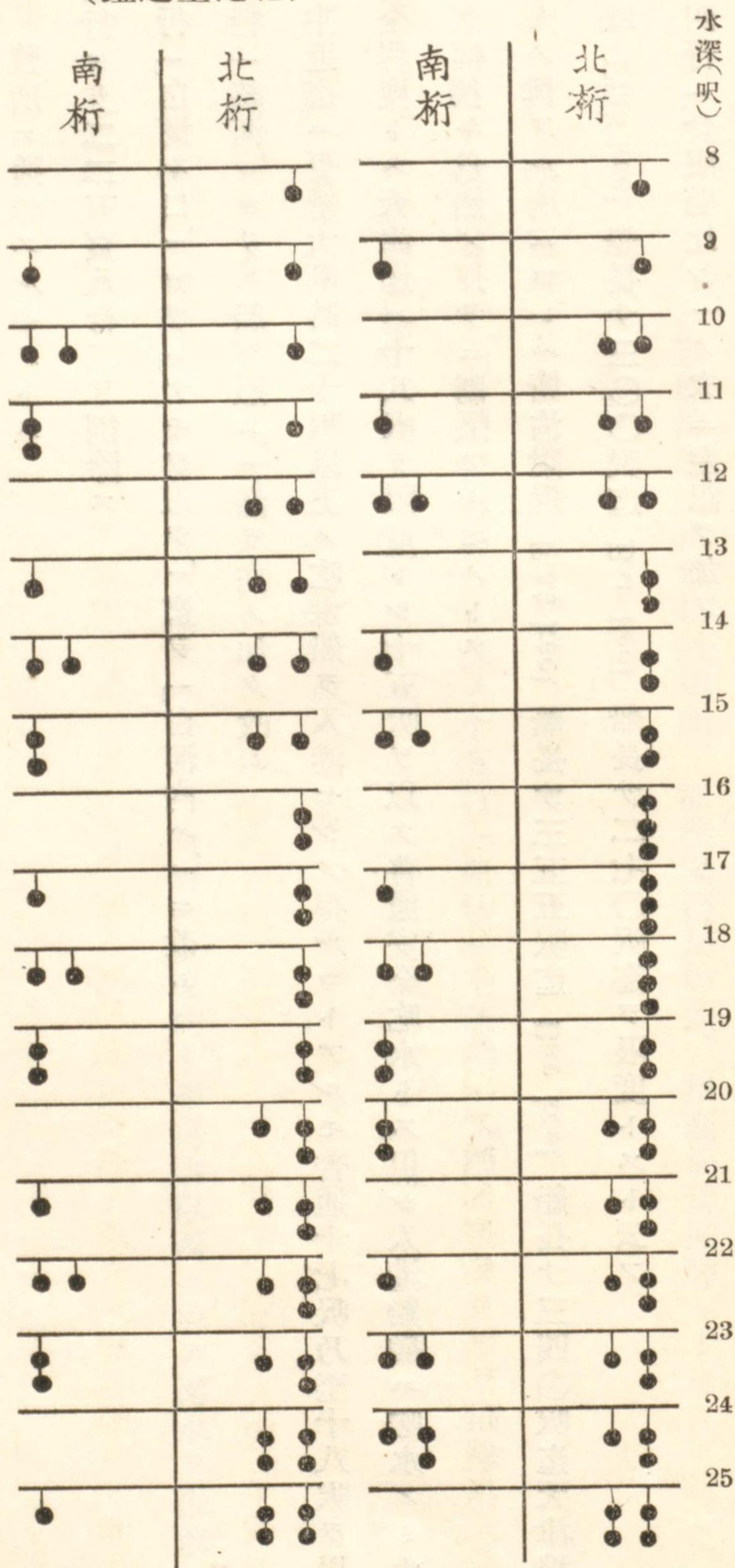
前記ノ假泊錨地附近ハ餘裕少キカ故ニ風向ニヨリ偏南風ノ時ハ南側浚渫船用導標線上ニ偏北風ノ時ハ北側浚渫船用導標線上ニ投錨スルヲ要ス錨泊中風向反對方向ニ變スルトキハ機ヲ逸セス反對側ニ錨地ヲ變更スヘシ

冬季ハ水先人ヲ傭ハスシテ大沽門洲ヲ通過スルハ危険ナリ◎入進船舶ハ燈船トナレル砕氷船ヨリ水先人ヲ招致シ得ヘシ

十二行「二時」ヨリ「八呎」迄ヲ「三時三十分」◎大潮升八呎乃至十呎、小潮升六呎乃至八呎ト改ム天津大沽間ノ水準面ノ差ハ二呎ニ達セス從テ其ノ間ニ於ケル潮流々速ハ急ナラス漲落共ニ速度大差無ク北砲臺附近ニ於テ二乃至三節ナリ

船舶入港ニ際シ大沽門洲ノ水深ハ數吋ヲ爭フモノナルヲ以テ刻々ノ水深ヲ門洲燈船及塘沽信號所（北砲臺遺趾ニ在リ）ニ於テ晝間ハ黑球夜間ハ白燈ヲ用キテ左ノ如ク表示ス

門洲燈船 塘沽信號所 (北砲臺遺趾)



注意

一、斜桁ニ球又ハ燈一箇ヲ掲クル時ハ信號ノ水深ニ六吋ヲ加ヘ、又斜桁ニ一黑旗ヲ半揚スルトキハ三吋ヲ加フヘキコトヲ示ス

一、橋頭ニ球又ハ燈一箇ヲ附加掲揚スルトキハ潮昇ヲ示シ之ヲ掲ケサルトキハ潮降ヲ示ス
 一、荒天ニハ球ノ代リニ黒旗ヲ掲ク
 一、門洲燈船ニ於テ黒旗一旒又ハ一閃光ヲ表示スルハ燈船位置ニ於ケル潮昇ノ停止セルヲ塘沽信號所ニ通報スルモノトス
 七行ヨリ二二五頁八行迄ヲ削除ス
 三行「白河々口」ヨリ「ナキヲ以テ」迄ヲ「白河内ハ」ニ改ム
 五行「該河」ヨリ「船ヲ通ス」迄ヲ左ノ如ク改ム
 塘沽附近迄ハ夏季大潮時二十呎以上ノ吃水船ヲ入港セシメ得ルコトアルモ普通十七呎乃至十八呎ヲ以テ安全程度トス天津迄ハ十八呎ヲ限度トシ十五呎ヲ以テ普通安全吃水トス但シ入港船舶ハ吃水ノミナラス河幅狭キ爲船ノ長サニ制限アルモノトス
 水先人ノ稱フル所ニヨレハ塘沽附近 Flat Keel 船長サ三三五呎迄 Bar Keel 船長サ三四〇呎迄天津埠頭區域 Flat Keel 船長サ三三〇呎迄 Bar Keel 船長サ二七〇呎迄ヲ限度トスト云フ
 十四行「倉庫櫛比シ」ノ次ニ左記ヲ加フ

埠頭ノ主ナルモノハ日本郵船埠頭、京奉鐵道埠頭、開灤礦務局埠頭、招商局埠頭等ニシテ
 同行「通セリ」ノ次ニ左記ヲ加フ
 吃水十六呎ノ船ハ何時ニテモ此等埠頭ニ横著スルヲ得
 同行「開平礦務局」ハ「開灤礦務局」ニ改メ五行「塘沽ノ上流約一哩ニアリテ」ヲ削除ス
 塘沽ト天津トノ間ニハ電信電話ノ連絡アリ
 六行「於テ載炭ス」ヲ「於テ載炭シ得」ニ改ム
 八行「辨スルコトヲ得」ヲ左ノ如ク改ム
 辨スルコトヲ得ルモ飲料水ハ適良ナラス罐水トシテハ塘沽ノ上流約十哩葛沽以西ニ於テ河水ヲ汲取レハ鹽分尠ク使用ニ堪ユ
新河
 塘沽ノ上流約二哩ノ河岸ヨリ内方約一哩ノ處ニアリ京奉鐵道新河驛アリ河岸ニハ鐵道材料及諸貨物揚陸ノ爲完備セル繫船埠頭アリ
 五行「約八十萬」ヲ「約九十五萬」ニ改ム

八行「回頭スルコトヲ得」ノ次ニ左記ヲ加フ

回頭錨地 (Swinging basin) ハ佛租界日本郵船會社前及英租界前ノ二箇所ニアリテ回頭法ハ追潮ニ舵ノ効力ヲ失ハサル程度ニ極微速トナシ回頭錨地ニ近ツキ河ノ中央附近ニ左舷錨ヲ投シ錨鎖一節ニテ止メ錨ヲ引摺リツ、惰力ニ依ツテ前進シ錨鎖ヲ延ハシ(二節附近迄)船首回頭錨地ノ中央回首點附近ニ至ラハ止メ潮流及汽機ニヨリ回頭シ過半ニ及ヘハ錨ヲ揚ケツ、回頭ス目下天津錨地ニ於テハ船長二九〇呎以上ノ船舶ハ回頭ヲ許サレス

埠頭及倉庫

南岸紫竹林ニハ佛、英及獨(舊)各租界ニ繫船埠頭ノ設備アリ混凝土造ニシテ平均長三〇〇呎ノ繫船場九箇アリ其傍側水深低潮時十一呎ナリ◎貨物ノ積卸ハ苦力ヲ以テス十噸起重機モ利用スルヲ得浮起重機無シ◎對岸ニハ露白兩租界アリ完全ナル繫船設備無キモ石炭木材ノ積卸ニ差支無シ

天津埠頭ニ於ケル荷役能力ハ船舶及季節ニヨリ善異アレトモ一日晝間ニ於ケル平均荷役能力左ノ如シ

雜貨 六〇〇乃至七〇〇噸

穀類 七〇〇乃至九〇〇噸

十一行ノ次

石炭 六〇〇乃至八〇〇噸

但シ夜荷役ハ半夜荷役ノ時ハ晝間ノ二割五分乃至三割、全夜荷役ノ時ハ五割乃至六割ヲ減ス
當地方ハ四季ヲ通シ降雨極メテ稀ナルヲ以テ一般貨物ハ概ネ野積 (Open-storing) トナシ置クノ習慣アリ且各貿易業者ハ各自相當ノ倉庫上屋及置場ヲ有スルカ故ニ他港ノ如ク廣大ナル倉庫業ノ發達ヲ見ス目下天津ニ於ケル船會社所屬並ニ倉庫專業者ノ有スル倉庫上屋及置場ハ左ノ如シ

倉庫二十二棟 二、八四七坪 内日本人經營ノモノ十四棟一、七一二坪

上屋 十四棟 三、三〇四坪 同 五棟一、三五八坪

置場 七箇所 一〇、二〇〇坪 同 六箇所七、二〇〇坪

天津ニ於ケル上水道ハ濟安自來水公司及英租界局ノ二所ニテ經營シ前者ハ南運河ヲ後者ハ白河ヲ水源トシ兩者共 Gaavitation System ニヨリ濾過淨水スルト雖源水ハ有機物ニ富ミ無數ノ大腸菌其ノ他ノ

雜菌腸寄生蟲等棲息シ居リ水質劣惡ナリ

夏季冷藏用水ハ民間ニ於テ相當貯藏量アリ(白河及附近ノ自然水)

四行五行ヲ左ノ如ク改ム

二三三頁
三行ノ次

石炭及石油

當地附近石炭ノ產出無ク主トシテ開灤及山西炭ヲ輸入ス開灤礦務局出張所ニ於テハ優ニ數千噸ヲ貯ヘ埠頭ニ送リ補給ヲナス又塘沽ニモ貯藏アリ

石油ハ美孚及 Asiatic Petroleum Co. ノ兩會社ニ相當ノ貯量ヲ有シ購入スルヲ得ヘキモ揮發油ハ得難シ七行八行及九行ノ「ナリキ」迄ヲ左ノ如ク改ム

最近天津貿易ハ毎年引續ク戰禍ニ阻害セラル、コト尠カラスト雖當地海關統計ニ據レハ其輸出入總額大正九年以降同十二年ヲ除キ逐年増加シ大正九年ノ一七六、二一〇、〇〇〇海關兩餘（以下單ニ兩ト稱ス）ニ比シ大正十四年ハ約一一五、〇〇〇、〇〇〇兩ヲ増加シテ二九一、二二六、六八八兩（内輸出九九、九三七、九五三兩輸入一九一、二八八、七三五兩）トナレリ其内ニモ外國貿易ハ大正九年ノ輸出入額一〇九、六九〇、〇〇〇兩餘ニ比シ大正十四年ハ約六二、三二〇、〇〇〇兩ヲ増加シテ一七二、〇一〇、〇〇〇兩餘トナリ沿岸貿易モ亦最近大増加ヲ示シ大正九年ノ六六、五一〇、〇〇〇兩餘ニ比シ大正十四年ハ約五二、六九〇、〇〇〇兩ヲ増加シテ一一九、二一〇、〇〇〇兩餘トナレリ是主トシテ近時支那國內產業發展ノ結果ナルヘシ◎當港出入港船舶モ亦最近隻數噸數共ニ遞増シ一般航行章程

ニヨル各國出入港船舶ハ大正十四年ニ於テ合計三、八二四隻、四、八四〇、一九一噸ニシテ前年ニ比シ隻數七八二隻噸數七九〇、一二六噸ノ増加ヲ示シ内水航行章程ニヨルモノハ同年合計一、〇三五隻一八一、九九三噸ナリ

九行「主ナル外國輸入品」ノ次ニ「染料、麥粉」ヲ加フ
十一行「豌豆」ヨリ十二行「羊毛トス」迄ヲ左ノ如ク改ム
絨氈、棉花、羊毛、駱駝毛、豆類其他雜穀、鷄卵、黃麻、落花生、亞麻種、菜種、大麻、麥稈真田、胡桃、杏仁其他藥種、葉煙草、石炭等トス

十三行ヨリ二三四頁一行迄ヲ削除ス
當地ニ定期航路ヲ有スル會社及其航路ハ左ノ如シ

會社	航路	國籍
日本郵船株式會社	神戸、天津線、橫濱、支那線	日本
大阪商船株式會社	神戸、天津線、橫濱、天津線	日本
	高雄、天津線	

大連汽船株式會社	大連	天津線	日本
太古洋行	廣東、天津線、上海、天津線	英國	
怡和洋行	同 右	英國	
招商局支那商船會社	同 右	支那	
三北輪船公司	上海、天津線	支那	
義泰輪船公司	牛莊、天津線	支那	
義興公司	白河内	佛國	

六行「氣候」ヲ「氣候及其影響」ニ改ム
 七行「概晴天ナリ」ヨリ八行「常トス」迄ヲ左ノ如ク改ム
 盛夏二箇月ハ概シテ濕潤ナルモ他ノ三季ハ悉ク乾燥季ト稱スルヲ得ヘク就中冬季一箇月間降雨雪ヲ見サルコトアリ
 八行「夏時ノ流行風」ヨリ九行十行「上昇ヲ伴フ」迄ヲ左ノ如ク改ム
 一般ニ夏季ハ南東風冬季ハ北西風流行シ風力ハ概シテ弱ク之ニ反シ春秋兩季ハ風向不定ニシテ屢強吹

ス而シテ暴風ハ主トシテ北東風若ハ東風ニシテ夏季ニモ稀ニ突風ヲ見ルコトアリ是等ハ航海者ノ最モ苦ム所ナリ又春季ニ北西風強吹スルトキハ所謂黃塵萬丈 (Sand Storm) 咫尺ヲ辨セサルコトアリ又一日中ニ於テモ風向風力ノ變移甚タ多ク特ニ午後ニ於テ然リトス◎夏季ヲ中心トシテ四月ヨリ十月ニ至ル期間ハ概ネ海上平穩ニシテ夏季流行ノ南東風ハ白河ノ水量ヲ増シ船舶ノ出入貨物ノ荷役上當地方最良ノ季節ナリ冬季流行ノ北西風ハ寒冷ニシテ殊ニ十二月下旬ヨリ二月初旬迄ハ荒天結氷等ノ自然的障害多ク大沽沖、天津埠頭共ニ荷役困難ニシテ危險多キ季節ナリ特ニ一月中ノ荷役ハ危險寧不可能ナリ

十四行末尾ニ左記ヲ加フ

◎當地ハ晝夜氣溫ノ差甚シク春秋ノ候ニハ一日中攝氏ニテ氣溫二十三度ノ變化ヲ見タルコトアリ

衛生

當地方ハ溫度ノ高低著シキト比較的長期間ニ亘ル寒氣トハ相俟チテ傳染病ノ天然豫防トナリ爲ニ其ノ猖獗ヲ見ルコト少ク若シコレアレハ住民ハ之ヲ衛生設備ノ不備ニ基因スルト見ルヨリ寧天意ト見做スノ風アリ外國租界ニアリテハ上下水道ノ設備整ヒ衛生設備整フモ支那街ハ水道ノ設備無キハ勿論少シク奥マリタル街路ニハ汚物到ル處ニ散積シ臭氣鼻ヲ衝クノ狀到底忍ヒ得サルナリ

病院中支那官營ノモノハ天津官立醫院（支那街）、北洋醫院（佛租界）、天津公立女醫院（總督衙門附近）直隸省設醫院（支那街）、海軍醫學校附屬醫院（佛租界）、北洋防疫處附屬防疫醫院（支那街）アリ其ノ外日本人經營ノモノニハ天津共立病院（日本租界）東亞醫院（佛租界）等十箇所アリ其ノ他外國人經營ノモノ十箇所アリ

六行「沙壘田島燈臺」ヲ「沙壘田島」(曹妃殿島)燈標ニ改ム

七行八行全文ヲ左ノ如ク改ム

舊燈臺ヨリ北西方約三鏈八ノ處ニ燈標ヲ設置ス◎黒塗架臺造◎閃白光（每三秒、一閃光閃三秒）◎燈暗二秒高々潮面上四十二呎◎光達十二哩

浮標及沈船

概位北緯三十八度四十一分東經一一八度四十分ニ點燈シアラサル白塗挂燈浮標 (Telegraph No. 8ト黒書)アリ航海者ハ注意ヲ要スト云フ

沙壘田島燈標ノ東方約十一哩北緯三十八度五十九分三十五秒 東經一一八度四十四分十秒ニ沈船アリ船體ハ兩斷セラルト云フ
淺灘

二五〇頁
次十二行ノ

八行ノ次

二四二頁

二五二頁

六行ノ次

佛國帆船 Algol、秦皇島ノ南方約十五哩（北緯三九度三九分三〇秒、東經一一九度四二分一五秒）ニ於テ水深四尋ヲ淺灘ヲ發見セリ

十三行十四行削除

三行「高四、七二〇」ハ「高四、二七〇」ニ改ム

港燈

開灤礦務局ハ夜間秦皇島泊地ニ近寄ル航路標識トシテ港燈ヲ掲揚スト云フ然レトモ私設ニシテ看守ナキヲ以テ信賴スルヲ得ス

七行「(假設)」ヲ削除シ八行「每二」以下ヲ「不動白光◎明孤二六〇度至八〇度」ト改ム

九行「八十七」ヲ「三十八」ト改ム

入港目標（海圖第三九二號第三七七號）

晝間ハ Thumb Pl. (4270) 及 Mt. Fisher (1800) ノ交叉方位ニヨリ船位ヲ確定シ秦皇島港口突端ニ向ケ直進シ得ルモ（海圖第三九二號）南西方ヨリ進入スル場合ハ Mt. Fisher (1800) ヲ確認シ能ハサルコトアリ此ノ場合ニ於テ山海關北方萬里ノ長城ヲ構築セル連山ハ好目標トスルニ足ルモ海圖上ニ明示

九行ノ次

シアラス山海關ニ近キ萬里ノ長城ノ西方約 884 呎山ハ其ノ北方高山ノ爲遠距離ヨリ確認シ能ハサルモ約十數哩ニ接近セハ入港目標トスルニ足ル(海圖第三九二號第三七七號)更ニ港口ニ接近セハ歸堤塞ノ北方約 313 呎山、秦皇島燈臺、金山嘴及港口突端等ニヨリ船位ヲ確定シ得
 夜間ハ沖合ヨリ棧橋及防波堤上ニ整列セル電燈ヲ認ムルヲ得ヘク更ニ接近セハ其ノ突端ノ紅綠兩燈ニヨリ港口ニ達スルヲ得ヘシ(海圖第三七七號)

十一行「開平 [Kaiping] 炭坑ノ」ヨリ十二行「ヲナシ」迄ヲ左ノ如ク改ム

開灤礦務局カ自家開平炭積出ノ爲當地ニ築港シ目下銳意其ノ改善ニ盡シツ、アリ

十五行「約五千ナリト云フ」ヲ「約一四、三二三アリ(一九二四年)」ニ改ム

五行「○棧橋ヲ挾ミテ」ヨリ八行「從ハサルヘカラス」迄ヲ行ヲ改メ左ノ如ク改ム

棧橋側ハ水深十八呎 防波堤側ハ二十二呎乃至二十五呎ニシテ底質泥土ナリ但シ冬季ハ之ヨリ二乃至

三呎ヲ減少スト云フ○棧橋ニハ之ヲ挾ミテ二隻、防波堤側岸壁ニ五隻ノ船舶ヲ繫留シ得ヘク而シテ防

波堤側ノ内五番乃至七番繫留場ハ一直線ヲナスカ故ニ繫船數ヲ減少セハ更ニ大型船ヲ繫留シ得ヘク七

番繫留場附近ニハ往々排水量一萬噸級ノ船舶ヲ繫留スルコトアリト云フ○埠頭繫留ニ就テハ總テ礦務

局埠頭長ノ指圖ニ從ハサルヘカラス

十行「貨物用トシテ三箇ノ五噸汽力起重機アリ」ヲ左ノ如ク改ム

埠頭荷役ナルカ故ニ舢舨無ク捲揚力五噸(實際ハ三噸半位)ノ移動起重機二臺アリ其以上ノ重量品荷

役ニハ本船ニ相當ノ設備アルヲ要ス○兩埠頭ニハ多數ノ電燈ヲ設置シ夜荷役ニ便ス

倉庫收容能力約七、〇〇〇噸(大正十三年七月調)ニシテ規定ノ料金を支拂ヘハ何時ニテモ使用シ得

野積ハ無制限ナリ

荷役能力ハ石炭ニ於テハ開灤礦務局ノ專屬又ハ支配下ニアル苦力約三千人アリテ大體貨車本船々艙間

擔キ込ミニテ一晝夜一一、〇〇〇噸乃至一二、〇〇〇噸ニシテ構造ノ大小等ニヨリテ相違アルモ普通

一隻一日一、八〇〇噸乃至二、三〇〇噸ナリ鐵道材料其ノ他ノ雜貨ハ苦力不馴ナルカ爲天津埠頭荷役

ヨリ一割乃至二割方劣ルヘシ(大正十三年七月調)

棧橋内端兩側ニ短艇發着所アリ同時ニ汽艇二、三隻ヲ漸ク横着シ得ル程度ニ過キス

船舶繫留信號

船舶ハ繫留ニ關シ信號又ハ其ノ他ノ方法ニヨリ指定ヲ受ケタルトキノ外無斷入進スヘカラス○繫留指

定ヲ受ケサル船舶ハ航路ヲ避ケテ投錨スルヲ要ス

晝間信號 高地上ニアル信號所ヨリ萬國船舶信號ヲ以テ信號ス

夜間信號 船舶夜間入港シ繫留指定ヲ乞ハント欲セハ汽笛長一聲短一聲ヲ發スヘシ然ルトキハ

防波堤又ハ棧橋ニ於ケル燈ノ下ナル桁ヨリ左ノ如キ信號ヲ表示サルヘシ

信號 意 義

防波堤ヨリ 綠燈四箇並列 防波堤ニ繫留セヨ

棧橋ヨリ 紅燈二箇並列 棧橋ニ繫留セヨ

船舶ハ右ノ信號ヲ受ケタルトキハ更ニ汽笛短一聲ヲ發スヘシ然ルトキハ左ノ如ク繫

留場ノ番號ヲ表示サルヘシ

信號 意 義

防波堤ヨリ

西方桁端ニ 綠燈一箇 三番繫留場

西方桁端ニ 綠燈二箇並列 四番繫留場

水先人

當地ニハ水先人無シ然レトモ埠頭長ハ請求アレハ船舶繫留ニ應スヘシ
尙懇切ニ港内外ニ於ケル水路ノ質問ニ應スルト云フ

八行「○防波」ヨリ九行「云フ」迄削除
十行「偏北風流行ス」ノ次ニ左記ヲ加フ

兩桁端ニ 綠燈各一箇 五番繫留場

西方桁端ニ 綠燈一箇 六番繫留場

東方桁端ニ 綠燈二箇並列

西方桁端ニ 綠燈二箇並列 七番繫留場

東方桁端ニ 綠燈一箇

棧橋ヨリ

西方桁端ニ 紅燈一箇 一番繫留場

東方桁端ニ 紅燈一箇 二番繫留場

夏季ハ南風多シ四季ヲ通シテ降雨亦稀ナリ春秋二季ハ風向風力共ニ不規則ニシテ海上比較的穩ナラス
氣候ハ大陸的ニシテ氣溫ノ變化甚シク八月ハ百二十度ニ昇リ苦熱ヲ感スルコト稀ナラス冬季ハ氷點以
下十度ニ降ルコトアリ然レトモ稍規則的ニ三寒四溫ヲ繰返シ三、四日間寒風連吹スレハ忽チ溫氣ヲ含
メル好天トナル

當港ニ於テ最モ恐ルヘキハ偏北東乃至偏東風ニシテ突然襲來スルコトアリ但シ半日以上吹キ續クコト
稀ナリ又南西風及南東風強吹スル時ハ船舶ノ繫留及荷役等ノ作業ヲ困難ナラシム

檢疫及衛生

平常ハ檢疫無ク傳染病流行地ヨリ來レル船舶ニノミ施行ス

病院ニハ礦務局經營ノ病院及支那官立防疫醫院アリ

上下水道未完成ナルモ支那街ノ外衛生狀態ハ概シテ良好ナリ

修理

近時極メテ小規模ナル Ship Dock ヲ設ケ船體機關ノ小修理ヲ爲シ得ト云フ

十二行「芝罘」ヨリ「往復ス」迄ヲ左ノ如ク改ム

當港ハ石炭輸出港ナルヲ以テ臨時船ノ入港多キモ定期船ハ甚タ少ク芝罘、秦皇島間ニ一週一回往復ス
ル沿岸航船アルノミナリ然レトモ冬季天津ノ結氷期間ニ於テハ近海郵船會社、大阪商船會社、Butcher-
field & Swire Co. 等ノ定期船ハ當港ニ寄港ス

一行「供給品ハ豊富ナリ」ヲ左ノ如ク改ム

糧食ハ米、麥、野菜、牛豚魚肉及果物等總テ豊富ニシテ廉價ナリ又氷アリ

一行「多量」ヨリ二行「ナシ」迄ヲ左ノ如ク改ム

多量ニシテ棧橋及防波堤ニ於テ供給シ一時間ノ給水量約五噸内外ナリ但シ錨泊船舶ニ對スル給水ノ設
備無シ

四行五行ヲ左ノ如ク改ム

開平營ト灤州（秦皇島ノ西方六十乃至七十哩）ニ跨ル大炭脈ヨリ出ツル通稱開平炭ハ開礦二十餘年ニ
亘ルモ猶其ノ百分ノ一タモ採掘セサル無盡礦ニシテ英人之ヲ經營管理シ其ノ年産額四、五〇〇、〇〇
〇噸ノ内三、〇〇〇、〇〇〇噸ハ京奉鐵道線ニヨリ秦皇島ニ運搬輸出セラル◎當港ノ貯炭能力約三〇
〇、〇〇〇噸ニシテ通常七〇、〇〇〇噸ヲ貯藏ス

最近五箇年間當港ヨリ輸出セラレタル開瀾炭量左ノ如シ

大正九年	二、〇二六、九七七噸
同 十年	二、〇二〇、一五四噸
同 十一年	一、一六八、二〇〇噸
同 十二年	二、〇七一、三〇九噸
同 十三年	一、四一一、八一二噸

右ノ如ク大正十三年ノ著シク尠カリシハ戰亂ノ影響ナリ

七行八行ヲ左ノ如ク改ム

秦皇島ニ於ケル最近五箇年間ノ貿易額左ノ如シ

大正九年	一七、二三六、四三一海關兩
同 十年	二二、四五〇、六七六海關兩
同 十一年	一六、三〇〇、〇二三海關兩
同 十二年	二〇、四九三、六四一海關兩

同 十三年 一七、六八三、五二六海關兩

右ノ如ク大正十三年ハ前年ニ比シ二、八一〇、一〇五海關兩ノ大激減ナリ是當地ハ奉直戰亂ノ中心地
タリシ爲其ノ蒙リタル打撃ノ甚大ナリシニ因ル

最近五箇年間當港一般航行章程ニヨル各國出入港汽船數左ノ如シ

大正九年	二、一三〇隻	二、三四〇、五六〇噸
同 十年	一、六九二隻	二、三六五、〇二〇噸
同 十一年	九七二隻	一、七一五、六一二噸
同 十二年	一、四四〇隻	二、六五一、六五四噸
同 十三年	一、〇三五隻	二、一五一、九八七噸

十四行「約一湮南方ニ延ヒテ」ヲ「約二湮南方ニ擴延セリト云フ而シテ其ノ外縁ハ」ニ改ム

六行七行八行ヲ削除ス

此灣ノ底質ハ緻密ナル沙泥ニシテ土民等ノ實驗ニ依ルニ二、〇〇〇听ヲ載貨セル馬車モ其車輛ノ没入
スルコト普通二吋位ニシテ多キモ七吋ニ達スルコトナシト云フ故ニ民船ヨリノ荷卸ノ如キハ馬車ヲ船

ノ兩舷ニ横附ケシテ行フ

二七九頁ノ
次十二行ノ

一九二二年ノ報告ニ依ルニ門州上ハ低潮時ニハ吃水十呎以下ノ船舶、高潮時ニハ吃水十八呎ノ船舶ハ通過シ得ト云フ

二八〇頁

十五行「遼河」ヨリ二八一頁一行「セリ」迄ヲ左ノ如ク改ム
最近十年間ニ於ケル結氷狀況次ノ如シ

年次	流水初日	最終船舶	結氷初日	氷厚 (時)	解氷期日	初入航船	流水終日	結氷期間 (日)
一九一二	十一月十四日	十一月廿七日	十二月十九日	三六	翌年三月廿五日	三月廿七日	四月五日	九七
〃 一三	十一月廿七日	十二月一日	一月七日	一〇	〃 二月十五日	三月一日	四月五日	四〇
〃 一四	十一月九日	十一月三日	十月十二日	二三	〃 三月廿二日	三月廿九日	四月十日	七〇
〃 一五	十二月七日	十二月六日	結氷セズ			三月廿日	四月三日	
〃 一六	十二月八日	十二月一日	十二月廿一日	二三	〃 三月廿一日	三月廿九日	三月卅一日	九一
〃 一七	十一月廿七日	十二月三日	十二月廿五日	一七	〃 三月十四日	三月廿一日	三月廿三日	八〇
〃 一八	十二月一日	十二月一日	十二月卅日	一九	〃 三月六日	三月十七日	三月廿三日	六七
〃 一九	十一月廿四日	十一月廿九日	十一月廿八日	二〇	〃 三月十八日	三月十八日	三月卅一日	八二

二八一頁ノ
次十二行ノ

水先人ニハ日本人一名外國人三名アレトモ指名招傭スルヲ得ス○水先料ハ浮標外南方ヨリ吃水一呎ニ付銀四兩ナリ○出港ノ際ハ水先人ヲ要招スル旨豫メ港長ニ通知シ置クヲ要ス

自由水先制ナレトモ水路ニ不案内ナルモノハ水先人雇傭ノ必要アリ○大正十二年ヨリ當地海關ニテハ夜間門洲通航ヲ許可シ尙從來ノ水先船(帆船)一隻ノ外汽船一隻ヲ建造シタルカ故ニ船舶ハ多大ノ便宜ヲ得ルニ至レリ

二八二頁

一行「每三」ヨリ「光燈」迄ヲ「群閃白光^{十秒}」ト改ム
十一行ヲ左ノ如ク改ム
密濛又ハ霧天ノ時ハ自働「アセチリン」霧砲ヲ每三十秒ニ一發ス

十三行十四行ヲ削除ス

三行「一二〇度十七湮」ヲ「一二二度十五湮」ト改ム

五行「一七四度五湮半」ヲ「一七七度六湮」ト改ム

二八三頁

導水堤

門洲ニ沙泥ノ沈積スルヲ防止スル爲河口左岸ニ於テ East Spit beacon ヨリ East bank 西縁ニ沿ヒ約南西方ニ長約五湮ノ東導水堤アリ低潮ニハ水面上ニ現ハル

東導水堤ノ中央部ノ對面ニ約四鏈ヲ隔テ之ニ並行ニ長一湮四鏈ノ捨石導水堤アリ水面下ニ沒ス

East Spit beacon ノ上流約二¹/₂湮ノ處ヨリ八度ニ向ヒ長一湮二鏈ノ西導水堤アリ

然レトモ未タ充分ナル效果ヲ收ムル能ハス門洲ヲ浚渫シテ最少水深九呎ヲ得ル爲ニハ更ニ東導水堤ヲ延長スル外之ニ並行スル西導水堤約五湮ヲ築造スルヲ要スレトモ當分實現困難ナリト云フ

十行「西堆」ヨリ十一行末尾迄ヲ左ノ如ク改ム

門洲信號所 (Bar signal station) ●ヨリ二二八度七湮七鏈五ノ處ニ碇置ス

十三行「黒塗」ヲ「紅塗」ト改ム

十三行「門洲最淺部」ヨリ十四行末尾迄ヲ左ノ如ク改ム

門洲信號所 (Bar signal station) ●ヨリ二二一度五湮四鏈九ノ處ニ碇置ス

一行「紅塗」ヨリ「鐵造」迄ヲ「球形頭標附黒塗圓錐形」ト改ム

四、江ノ左岸、堆ノ縁端、舊砲臺ノ信號竿立標ヨリ二二一度一湮二鏈水深二十三呎ノ處ニ黒塗三角形頭標附紅塗圓錐形鐵造浮標ヲ碇置ス

七行至十五行削除

一行至十行削除

一 東導水堤上ノ諸立標

Inner bar beacon

紅塗菱形頭標附立標 (高潮面上約三十呎) ニシテ導水堤上最外端ニ立ッ (北緯三十九度三十三分十二秒東經一二二度五分三十秒)

Outer beacon

Inner bar beacon ヨリ内方約二湮ノ堆上ニ立チ中浮標ニ並フ

Central beacon

Outer beacon ヨリ内方約一湮ノ堤上ニ立ッ

Inner beacon

Central beacon ヨリ内方約八鏈半ノ堤上ニ立ッ

East spit beacon

二紅球ヲ戴キタル紅塗圓柱（高潮面上二十五呎）ニシテ門洲信號所ヨリ二四〇度一湮一鏈、導水堤上最内端ニ立チ East spit ノ西縁ヲ示ス

十二行「一」ヲ「二」ニ改メ十三行「南々」ヨリ「上ニ」迄ヲ「一七三度一湮ニ」ト改ム

十五行至二八六頁一行二行記事ハ追補訂正ノ上前記ノ如ク東導水堤上ノ諸立標記事ニ附加シタルヲ以テ本誌ニ於ケル此ノ舊記事ヲ削除ス

十四行「Elagstaff」ヨリ「湮ノ」迄ヲ「門洲信號所ヨリ二八三度二湮四鏈」ト改ム

八 West fish stakes beacon

黒塗球形籠ヲ戴キタル立標ニシテ門洲信號所ヨリ二三六度約二湮^三鏈ニ樹チ舊西漁柵ノ最外杆ナリ

見通シ標 Channel limit beacon

永遠角ノ對岸ニ於テ南北ニ相隔タル左記二對ノ見通シ立標（扇形頭標附）ヲ設ク

上流立標 家溝左岸ノ樹木ヨリ四八度二湮二鏈ノ處及上記位置ヨリ四二度二三〇米ノ處

二八六頁
二八七頁
四行ノ次

二八九頁

下流立標 舊砲臺信號竿立標ヨリ三一一度一湮三鏈ノ處及上記位置ヨリ二二〇米ノ處

此見通標ハ航路ノ指導標ニアラスシテ永遠角ヨリ斗出スル淺洲ノ危險界ヲ示スモノナリ

六行ノ次潮信號ヲ左ノ如ク改ム

門洲上ノ水深(呎)	東桁端	西桁端
6		●
7		● ●
8		● ● ●
9		● ● ● ●
10	●	
11	●	●
12	●	● ●
13	●	● ● ●
14	●	● ● ● ●
15	● ●	
16	● ●	●
17	● ●	● ●
18	● ●	● ● ●
19	● ●	● ● ● ●
20	● ●	
21	● ●	●
22	● ●	● ●
23	● ●	● ● ●
24	● ●	● ● ● ●
25	● ●	
26	● ●	● ● ●

二九〇頁

五行「ノ南東方一鏈」ヨリ六行「過クル様」ヲ「右舷ニ見ル様」ニ改ム

六行「針路ヲ取り」ノ次ニ「東導水堤ニ沿ヒ」ヲ加ヘ「ノ南東方ニ接航シ」ヲ「及」ニ改メ「指導

目標トシ」ヲ「左舷ニ見ツ、」ニ改ム

十行「次イテ」ヨリ十一行「離シ」迄ヲ削除ス

十五行ノ次

門洲通過ニ對スル注意

出港ノ商船ハ荷物ヲ平泛 (even keel) ニ搭載シテ門洲通過後荷線リヲナシ適度ノ吃水トナスコトアリ
門洲ヲ通過シ得ル船舶ハ總テ牛莊港碇泊ニ危険無シ

二九二頁

七行至十五行ヲ左ノ如ク改ム

牛莊港

牛莊港ハ營口ノ港ヲ指スモノニシテ遼河ノ一部ナリ其位置遼河々口ヲ遡ル約十四哩ノ地點ニアリ◎港
域ヲ二區ニ別ツ即一ハ汽船及西洋型帆船ノ碇泊區、他ハ民船戎克ノ碇泊區域ナリトス其境界次ノ如シ

汽船碇泊區域

西ハ老爺閣ヨリ三六〇度ニ遼河ヲ横斷スル線、東ハ青堆子河口ヨリ三六〇度ニ
遼河ヲ横斷スル線内ニシテ延長一哩八鏈餘河幅平均四鏈アリ

戎克碇泊區域

汽船碇泊區域ノ下流ヨリ河北驛ニ至ル間トス

碇地ノ錨搔ハ良好ナラサレトモ稅關ノ下流ニ近キ Astor House 旅館ノ對岸ヲ最良トス

河底ノ形狀ハ潮流ノ爲時々變化シ水深一定セサレトモ左岸市街ニ面スル方一帶ニ深シ繫留浮標無ク錨
泊スルモノ多シ◎錨泊船舶ハ概ネ錨鎖四十五尋ヲ繰出シ双錨泊ヲナスヲ常トス順潮ニ乗シテ入港シ埠

頭ニ繫留又ハ双錨泊ヲナサントスル船舶ハ先ツ一錨ヲ投シ錨鎖約一節ニテ止メ錨ヲ引摺リツ、汽機ヲ
使用シ船首ヲ回頭シタル後所定ノ位置ニ就クヲ宜シトス其ノ際錨鎖ヲ一節以上延出スルトキハ潮流ノ
爲切斷スル虞アリ注意ヲ要ス船舶ハ陸岸ヨリ船體ノ長サノ二倍ヲ隔テ、航路ヲ塞カサル程度ニ適宜二
列ニ繫留スルヲ普通トス

注意

營口ニ於テ河ノ南側 Jardine Matheson Co. 埠頭及日本郵船會社埠頭近傍ニ毎年七、八月ニ於ケル出
水後水深約十一、二呎ノ淺堆形成スト云フ

二九二頁

二行三行ヲ左ノ如ク改ム

港區内外ノ河岸ニ大小總計二十七箇所ノ埠頭アリ然レトモ滿鐵埠頭ヲ除キテハ埠頭トシテ完備セルモ
ノ無ク河岸ノ前面ニ Pontoon ヲ浮ヘ船舶ヲ繫留スルモノ多シ内主要ナルモノ、要目ヲ掲クレハ左ノ
如シ

市街側即河南側

滿鐵埠頭

石造箇所八四五米、木造箇所五一八米ニシテ三箇ノ Pontoon ヲ備フ

太古洋行東埠頭 延長一三六米木造ニテ Pontoon 無シ

旗昌洋行東埠頭 延長一〇九米 Pontoon 四箇ヲ備ヘ日本郵船會社ノ所有ニ屬ス

怡和洋行埠頭 延長二〇〇米 Pontoon 六箇ヲ備ヘ英國怡和洋行 (Jardine Matheson Co.)ノ所有ニ屬ス

ニ屬ス

太古洋行西埠頭 延長二一八米十箇ノ Pontoon ヲ備ヘ整備セリ

下流河北側

京奉線河北驛埠頭、石造ナレトモ別ニ埠頭トシテ設備無ク河北驛ト營口海關東側トノ連絡船及戎克

船ノ繫留貨物積卸シニ使用セラル

Asiatic Petroleum Co. 埠頭

自家専用ノモノニシテ埠頭延長約一一八米給油管ヲ設ク

Standard Oil Co. 埠頭

延長四五五米三箇ノ Pontoon ヲ備フ

大成公司埠頭 延長一六四米二箇ノ Pontoon ヲ備フ

荷役設備

水陸共起重機ノ設備無ク荷役ハ總テ船舶ノ起重機ヲ使用ス

荷役用舢舨ハ全部二十噸乃至五十噸積ノ戎克ヲ使用セリ

税關上屋ノ設備無ク船舶業者所有ノ保税倉庫二十七棟總坪數四、〇六八坪アリ内日本人經營ノモノ十

四棟アリ

滿鐵埠頭ハ設備完全ニシテ鐵道トノ連絡便利ナレトモ輸出貨物ハ主トシテ市中間屋倉庫ニ貯藏シアル

故本船積ノ際ハ戎克ヲ使用シ輸入貨物ハ普通船舶業者ノ保税倉庫ニ陸揚ケセラル、ヲ以テ目下滿鐵埠

頭ヲ利用スルモノ稀ナリ

當港ハ暴風高浪ノ爲荷役困難ノ場合極メテ稀ナリ七月八月ノ候ハ降雨期ナレトモ荷役上支障尠シ十一

月下旬至三月下旬ノ結氷期間ハ荷役不能ナリ

十一行「此ノ市街ニ就テハ特ニ記スヘキ事ナケレトモ唯」ヲ左ノ如ク改ム

不潔ナル場所多ク夏季傳染病ノ流行ヲ見ルコト多シ而シテ其ノ

在留日本人ハ男九四三人女一九七人アリ (大正十二年六月調)

檢疫

平常ハ檢疫ヲ行ハス傳染病流行地ト認メラレタル港ヨリ着港シタル船舶ハ下流約一哩ノ處ニ停船シ檢疫ヲ受ク

立標

南滿洲鐵道會社石炭埠頭ト亞細亞石油會社貯油所トノ間ナル河中ノ石堆ヲ標示スル爲メ遼河左岸ニ二對ノ立標アリ

下流立標

黑白縦線塗四角形々象ヲ冠ス◎一線ニ見ルトキハ格子形ヲ成ス◎礎上高後部立標二十呎前部立標十五呎◎此二立標ノ一線ハ石堆ノ中心ヲ示ス

上流立標

黑白縦線塗四角形々象ヲ冠ス◎一線ニ見ルトキハ格子形ヲ成ス◎礎上高後部立標二十呎前部立標二十呎◎此二立標ノ一線ハ石堆ノ外縁ヲ示ス依テ石油埠頭ニ向フ船舶ハ之ヲ左方ニ開視スヘシ

牛莊港港則

水路誌附錄第一卷參照

二九三頁
十二行ノ次

二九五頁
九行ノ次

三〇三頁

八行ノ次

十二行ノ次

十四行ノ次

三〇四頁

十行ヨリ三〇三頁四行迄全文ヲ削除ス

五行「石炭」ヲ「石炭及重油」ニ改ム

但シ當地ニテ石炭ノ補給ヲナス船舶殆ト無ク多クハ秦皇島ニ回航ス

重油々 Asiatic Petroleum Co. ヲ購入シ得

營口水道株式會社ノ供給スル水道水ハ「クロール」ノ含有量檢水一立中六〇厩以上ニシテ夏季降雨少キ時ハ其含有量ハ實ニ三〇〇厩以上ニ達シ飲料ニ適セサルコトアリ

修理

Kwong Chong Co. ト稱スル小修理工場アルノミナリ

六行「同年」ヨリ九行末尾迄ヲ左ノ如ク改ム

一九二一年ニ於ケル海關經由總輸出入額ハ五七、五七一、三七五兩ナリ◎輸出品ノ主要ナルモノハ大豆、豆粕、高粱、玉蜀黍、人參藥種及皮革ニシテ輸入品ノ主ナルモノハ綿布、砂糖、紙類及石油等ナリ

十三行及十四行ヲ左ノ如ク改ム

一九二一年一般章程ニ依リ出入セル船舶ハ九五八隻總噸數八五二、一九四噸ナリ同年内港行輪章程ニ

三〇五頁
六行ノ次

依ル出入船舶ハ三〇八隻總噸數一〇六、六〇四噸ナリ
牛莊ヨリノ航路ハ南支那航路及日本航路ニ二大別スルヲ得ヘク前者ハ廣州迄後者ハ橫濱迄ニシテ中間
各港ニ寄港シ上海天津及神戸ニ於テ外國航路船ト連絡ス

三一九頁

十四行末尾ニ左記ヲ加フ

○附近ニ支那人經營ノ炭坑アリ年産額五〇、〇〇〇噸無煙粉炭ニシテ炭資良好ナリト云フ○當地村落
ニ電信局アリ

三二〇頁

一行「吃水二十一呎」ヲ「吃水十八呎」ニ改ム

三二七頁
二行ノ次

暗礁存在

汽船廣南丸ハ航行中左記位置ニ於テ底觸セリ（大正十五年）

猴兒石（高八呎）ヨリ一三一度⁷⁴距離三鏈

三三九頁

十四行十五行削除

三四〇頁

一行削除

十四行ヲ左ノ如ク改ム

三四一頁

其東側二番浮標ト八番浮標ノ間及同西側老虎尾ノ前面一番浮標ト三番浮標トノ間及第一標木ト第二標
木トノ連結線以南ノ淺所ヲ二十五呎ニ浚渫セリ

十二行「光達」ヨリ「一四七呎ナリ」迄ヲ左記ノ如ク改ム

其ノ外方低燈ハ光達十七湮高サ平均水面上三十五米内方高燈ハ光達十八湮半高サ四十六米ナリ

三十三行ノ
次

注意

白玉山指導挂燈立標ヲ三五六度ニ視ル入港針路ハ稍西偏シ老虎尾山下ニ延出スル淺灘ニ接近シ過クル
ノ嫌アリ入港諸船舶ハ此事ヲ考慮スルヲ要ス

三四二頁

四行「點ス」ヲ「點シ十五湮以上ノ處ヨリ視認スルヲ得」ト改ム

十一行十二行ヲ削除ス

三行「但」ヨリ四行「セリ」迄削除

三四三頁

六行、七行削除

十五行「口附近」ヨリ三四四頁一行「走ル」迄ヲ左ノ如ク改ム

外ハ一般ニ西流ハ高潮前三時半乃至二時半ヨリ高潮後三時半乃至四時半迄流レ東流ハ低潮前二時半乃

三四四頁
三行ノ次

至一時半ヨリ低潮後三時乃至四時迄流ル然レトモ極メテ不規則ニシテ夏季大潮ノ晝間ニ西流九時間東流三時間ナルヲ驗シタルコトアリ

潮汐

港内ニ於テハ約九分ヲ週期トスル規則正シキ海面ノ升降アリ其差時ニ一呎ニ達ス○偏北風ハ潮升ヲ減スルコト二呎ニ及フコトアリ偏北風ハ之ニ反ス○平均水面ハ二月ニ最低、八月ニ最高ニシテ其差二呎ニ達ス

十三行十四行ヲ左ノ如ク改ム

下關町埠頭端（東港北角ノ北方約一鏈）ヨリ不動白光ヲ顯ス

三四五頁

五行六行ヲ削除シ左記ヲ加フ

南滿洲鐵道株式會社ハ第二標木○北西方ニ於ケル埋立地ニ二箇ノ丁字形浮棧橋ヲ設置セリ其ノ形狀長サ六十呎幅二十呎ノ函船（Pontoon）ヲ碇置シ之ヲ頂部トシ陸岸トノ間ニ渡橋ヲ架設ス
西港内ニ二箇ノ繫船浮標（艀艇用）ヲ碇置セリ

水底電話線

六行ノ次

老虎尾半島端ノ立標ヨリ港務部西方海岸ニ至ル直線及西港内艀艇用繫船浮標ト老虎尾半島中程ニアルニ立標トヲ連ヌル直線ニ水底電話線アリ

旅順港規則及細則

八行ノ次

水路誌附錄第一卷ヲ參照スヘシ

九行至三四四頁五行全文ヲ削除ス

十二行「一九」ヨリ十三行「ナリ」迄ヲ「一九一九年ノ人口ハ一〇二、一六一ナリ」ト改ム

十三行「要港部」ヲ削除シ十四行「關東都督府」ヲ「關東廳」ニ改ム

三六五頁

八行「四」ヲ「六」ニ改ム

遇岩燈標

三七〇頁
四行ノ次

遇岩（十呎）上ニ燈標ヲ設置セリ○紅黑橫線塗圓形混凝土造○閃白光（毎四秒一閃光）○燈高平均水面上十九米八○光達十三裡五○明孤全度

霧信號

本燈標ニ霧鐘ヲ設置シ毎分ヲ隔テ、一回打鳴ス

但シ毎年八、九、十ノ三箇月間打鳴ヲ休止ス

圓島燈臺

圓島上ニ燈臺ヲ設置セリ◎白塗四角形混凝土造◎群閃白光(毎十八秒三閃光)◎燈高平均水面上六十八米四◎光達二十二哩◎明弧全度

霧信號

本燈臺ニ霧笛ヲ設置シ霧雪及溟濛ナル天候ニハ毎五十秒ヲ隔テ、五秒間吹鳴ス

九行十行ヲ削除ス

六行「回轉」ヲ「閃」ニ改ム

十行十一行ヲ左ノ如ク改ム

本燈臺ニ霧笛ヲ設置シ霧雪及溟濛ナル天候ニハ毎三十秒ニ四秒間吹鳴ス

黃白嘴燈臺

黃白嘴(西口角)ニ燈臺ヲ設ク◎白塗四角形混凝土造◎紅白互光(紅光五秒
白光五秒)◎燈高平均水面上八十四米五◎光達二十三哩五◎明弧ハ一二四度ヨリ六度ニ至ル間トス

霧信號

本燈臺ニ霧笛ヲ設置シ霧雪及溟濛ナル天候ニハ毎一分ニ一回吹鳴(吹鳴三十秒
休鳴三十秒)

注意(一時關係)

甘井子沖合ヨリ北防波堤ノ北側ニ沿ヒ更ニ東方五尋界線ニ至ル海面ニ於テ大正十五年四月二十五日至同十六年四月二十四日間左記作業船ヲ以テ水深及底質ヲ調査ス

(一)「ボトリング」船ハ船上ニ櫓ヲ組立テ晝間ハ紅白ノ横ニ染分ケタル方旗ヲ掲ク、夜間ハ不動白

光燈一箇ヲ掲ク

(二)水深測量船ハ前記同様ノ方旗ヲ掲ケ晝間ノミ作業ニ従事ス

七行八行九行全文ヲ左ノ如ク改ム

寺兒溝棧橋燈竿

寺兒溝棧橋外端ニ於テ東口南側燈臺ヨリ一四〇度二、一〇六米ノ位置ニ建テラレタル燈竿ハ白塗混凝土造ニシテ不動綠燈ヲ顯ス◎燈高平均水面上十八米一◎明弧全度◎光達約十一哩此ノ棧橋ハ兼テ改築中ノ處大正十五年九月竣成シ其ノ附近浚渫水深約九米ヲ有ス

十行ヨリ十五行「該消毒所棧橋ニ導ク」迄ヲ左ノ如ク改ム
海港檢疫所棧橋指導燈竿

黃白嘴ノ内方二^五湮ナル海港檢疫所附近ニ指導燈竿アリ其ノ前部燈竿ハ檢疫所船溜入口東側突堤端ニ
アリ白塗「コンクリート」造ニシテ燈高平均水面上八米八、後部燈竿ハ其ノ後方檢疫所煙突附近ニアリ
紅塗煉瓦屋上ニ建テタル白塗信號柱ニシテ燈高平均水面上十九米八ナリ二燈共電氣裝置ノ不動紅光ヲ
顯ス◎光達距離執レモ四湮◎明弧全度◎此ノ二燈ヲ一線ニ二〇二度ニ視テ進メハ該檢疫所船溜ニ導ク
六行「三十八」ヲ「四十二」ニ「^七」ヲ「^七」ニ改ム

三七八頁
三七九頁

十行括弧及括弧内ノ記事ヲ削除シ「第二埠頭」ノ次ニ「第三埠頭」ヲ加フ

十一行「第三埠頭」ヲ「第四埠頭」ニ改ム

十三行「ニ至ルヘシ」ヲ削除ス

第四埠頭工事業ノ爲左記四箇ノ浮標ヲ順次連結シタル線内海面ハ大正十五年四月二十三日至同十六
年三月十五日間一般船舶ノ碇撃航行ヲ禁止セリ

濱町大煙突〇(二一八呎)ヨリノ方位及距離

浮標様式

- (一) 八八度^七 七一三米
 - (二) 五九度 九九〇米
 - (三) 六七度 一、一一二米
 - (四) 七五度 九九〇米
- 十五行「兩埠頭」ノ兩ヲ除ク

- 紅塗三角形、木造
- 紅塗圓錐形、鐵造
- 紅塗三角形、木造
- 紅塗三角形、木造

注意

三八〇頁
八行ノ次

冬季ニハ築港内ニ流水ノ流入ヲ防クタメ築港入口ニ防材ヲ敷設スルヲ例トスルモ其ノ都度告示セラ
ルヘシ

十行至十五行ヲ左ノ如ク改ム

築港内既ニ完成セル埠頭ハ第一、第二、第三埠頭ニシテ第一及第二埠頭間ヲ甲埠頭、第二及第三埠頭間
ヲ乙埠頭ト稱シ其ノ外目下第四埠頭築造工事中ニシテ第三、第四埠頭間ヲ丙埠頭ト稱シ既ニ完成セリ
前記完成セル各埠頭ノ細目左ノ如シ(大正十五年五月調)

第一埠頭(先端及一側) 二、五一〇呎

第二埠頭(先端及兩側) 四、三九八呎

第三埠頭（先端及兩側）四、三七五呎

繫船岸壁 甲 埠頭 一、一三七呎

乙 埠頭 八九五呎

丙 埠頭 八九五呎

合計 一四、二一〇呎

繫船區 三十七區 各區ノ長サ 三九八呎

各埠頭ハ悉ク「コンクリート」方塊ヲ以テ築造サレタル直壁ニシテ吃水二十三呎乃至三十呎ノ船ヲ繫泊セシムルコトヲ得ヘク大型船約八隻中小型船（一千噸以上）約二十五隻ヲ同時ニ繫留可能ニシテ噸數ニ於テハ優ニ二萬噸以上ノ船舶ヲ繫留セシムルコトヲ得

一行「故ニ大連ヨリ」ヨリ二行「セサルヘカラス」迄ヲ左ノ如ク改ム

特ニ海務局長ノ許可ヲ得タルトキノ外危險物ハ寺兒溝棧橋ニ於テ積卸ヲ爲ス

寺兒溝棧橋ハ目下小規模ノ石油棧橋ニ過キササレモ附近埋立倉庫其ノ他諸設備増築等着々擴張工事中ナリ

三八一頁

二行ノ次

五行ノ次

燈竿（北緯三十八度五十六分三秒東經一二一度三十八分二十五秒）

大連内港防波堤内ニ於ケル碎岩船ノ夜間作業ニ必要ナル潮時信號ヲナス爲當分ノ間（大正二十年三月十五日迄）濱町埠頭ノ起點附近ニ燈竿ヲ設置シ閃紅光（電燈二箇ヲ裝置シ長短ノ閃光ヲ時々發ス）ヲ顯ス燈高水面上約四十呎

十行「不動紅光電燈」ヲ「閃紅光、毎六秒ニ一閃光ヲ發ス」ニ十一行「八湮」ヲ「十一湮」ニ十三

行「不動白光電燈」ヲ「明暗白光明三秒 暗三秒」ニ十四行「八湮」ヲ「十一湮」ニ改ム

三行「北側」ヲ「東側」ニ、五行「八湮」ヲ「十三湮」ニ、六行「南側」ヲ「西側」ニ改ム

八行至十一行削除

目標

第二埠頭ノ内方ニ白塗鐵造ノ信號柱ヲ有スル七階建煉瓦造建物アリ入港船舶ノ好目標ナリ○此信號柱

ニハ暴風雨信號、地方暴風警報及天氣豫報信號等ヲ掲揚ス

北防波堤内側ニハ東端ヨリ一、〇〇〇呎毎ニ紅塗縱線ヲ記シアリ船舶ノ交叉方位測定ニ便ス

四行「又二十」ヨリ六行「ナリキ」迄ヲ行ヲ改メ左ノ如ク改ム

三八三頁
二行ノ次

三八二頁

倉庫及上屋ハ普通倉庫六十四棟、危險物倉庫十一棟、保溫倉庫一棟、上屋三棟合計七十九棟、保管坪數九九、五一九坪アリ

寺兒溝豆油「タンク」ハ十二基アリテ總計二〇、〇〇〇噸ヲ收容シ得

外ニ野積保管場七〇、〇〇〇坪アリ

以上合計貨物收容力八〇〇、〇〇〇噸ナリ（以上大正十五年五月調）

七行「港内ニ六隻ノ曳船（碎氷船ヲ兼ヌ）アリ」ノ次ニ左記ヲ加フ

海務局ニ屬シ埠頭繫留（離）及 Berth 變更等ニ使用サル大正十四年十一月大連海務協會ノ表示ニ據レハ主ナル曳船五隻ニハ無線電話機（受信装置）ヲ裝備シ事務所屋上ニ設ケタル無線電話機ヨリ命令ヲ發シ得ル様計畫中ニシテ十四年度内ニ完成ノ豫定ナリト云フ

七行「又十一隻」ヨリ九行「ノモノナリ」迄ヲ左記ノ如ク改ム

又起重機ハ海上ニ於テハ五十噸起重機二臺五噸起重機五臺陸上ニ於テハ五噸乃至四十五噸可動式起重機五臺一噸半乃至三噸ノ半可動式起重機四臺豆油撒積用「タンク」五臺（各「タンク」容積一二〇噸）

（以上大正十四年）

十三行ノ次

三九四頁

三九六頁

十行末尾ニ左記ヲ加フ

◎港内ニハ四箇ノ繫船浮標ヲ碇置セリ

十二行「至便ナル上陸所」ノ次ニ「第二埠頭基部埠頭事務所前及」ヲ加フ

水路誌附録第一卷ヲ参照スヘシ

十四行至三九四頁一行全文ヲ削除ス

十三行十四行ヲ左ノ如ク改ム

大正十四年一月調ニ依レハ人口一八三、一七〇アリ内支那人一一〇、七四三、日本人七二、〇八四ニシテ其他ノ外國人ハ僅ニ三四三人ニ過キス

一行「一時間約五十噸」ヲ「一栓一時間約六十噸」ニ改メ「後者ハ三十五噸トス」ヲ「後者ハ一隻一時間三十乃至五十噸トス」ニ改メ末尾ニ（大正十四年）ヲ加フ

三行末尾ニ左記ヲ加フ

◎埠頭ニ於ケル石炭積込場所ハ第一、第二、第三、第四、第二十八、第三十ノ各區トシ機械積（カーダンバー式）ハ第一埠頭先端ニ設備セラレ一時間積込能力最大六〇〇噸ニ達スト云フ又給炭船ノ内撫

順丸ハ特ニ一時間二〇〇噸ノ積込能力アリ(大正十五年五月)

十行全文ヲ左ノ如ク改ム

大連ニ於ケル輸出入貿易ハ大正十四年中輸出五、三四五、八六〇噸輸入一、〇四三、九六七噸合計六、三八九、八二七噸ニシテ金額ニテハ輸出一六五、七一三、六五九兩、輸入一一八、六九六、七五五兩合計二八四、四一〇、四一四兩日本貨幣ニ換算スレハ五九二、八五三、五〇八圓ナリ

十二行至十五行全文ヲ左ノ如ク改ム

大正十四年中船舶ノ入港セシモノ三、六九一隻(總噸數八、五三四、九三七噸)内日本船二、五二四隻(總噸數五、九八一、八五七噸)出港セシモノ三、七二六隻(總噸數八、六二八、六五〇噸)内日本船二、五五三隻(總噸數六、〇六七、五四二噸)ナリ

二行「毎週」ヨリ三行「費ス」迄ヲ削除ス

報時信號

第二埠頭端ニ近ク倉庫屋上ニ設ク◎信號ハ電燈點滅式ヲ用ヒ白色電燈八十箇ヲ圓形ニ縱八線ニ裝備ス信號ハ日曜日及大祭日ヲ除キ毎日午後八時五十九分ニ點燈シ午後九時ニ消燈シ一秒後ニ點燈シ同九時

一分ニ消燈シ一秒後ニ點燈シ同九時二分ニ消燈ス

事故ニ依リ信號シ得サリシトキ又ハ信號不良ナリシ時ハ南山頂ノ關東廳觀測所ニ午後九時五分頃三分間紅燈三箇ヲ横列ニ點ス

衛生

一般衛生狀況ハ佳良ナリ滿鐵經營ノ病院アリテ設備完全ス
檢疫ハ寺兒溝錨地ニ於テ行フ檢疫所ニ瓦斯殺鼠ノ設備アリ

大連港擴張事業

當港擴張事業ハ着々進捗中ニシテ築港内ノ第四埠頭新設、寺兒溝附近ノ埋立及棧橋倉庫其ノ他諸設備ノ改築増築、小崗子海岸一帶ノ埋立及附近陸上ノ諸施設、甘井子ノ石炭専用棧橋及貯炭場ノ新設等其ノ他各地ノ諸設備擴張事業完成セハ大連埠頭ヲ中央トシ寺兒溝、甘井子、小崗子三方面ニ渡リ大連港ヲ實現スヘシト云フ

立標

前記險礁上ニ紅黑横線塗立標ヲ設置ス

四一頁
八行ノ次

此附近ノ五尋界以内ニハ幾分ノ淺所ナキヲ保セス航海者ハ注意ヲ要ス

十四行「八、〇五三」ヲ「三、五〇〇」ト改ム

十五行ノ
次

大連トノ間ニ毎月八回汽船ノ交通アリ

立標

大長山島ノ南岸二四一呎山ノ沖合礁脈ノ突端ニ立テ本島南岸干出岩ノ位置ヲ標示ス

目標

大長山島南角ノ紀念碑及蚘靶砦ハ哈仙水道ニ入ルモノニハ良目標ナリト云フ又同島北角ノ二八八呎丘

Peschavaya ハ之ヲ南西方ヨリ望メハ尖峰ヲ成シ良目標ナリ

四二頁

二行末尾ニ左記ヲ加フ

◎一暗礁アリ Nadvodni rock (Flat rock) (一一五) ヨリ五十二度六二五米ニ位シ水深一七尋上面凹凸

セル弧立岩ニシテ最淺部ヲ中心トシ約百米以内ハ水深概ネ三尋ソレヨリ以外ニテハ水深五、六尋以上

ナリト云フ

暗礁

四三頁
三行ノ次

石城島城山(七一三呎)ヨリ東北東方約十哩ニ水深_三尋ノ暗礁アリ

沈船

支那汽船利生號ハ前記暗礁ニ擱坐沈没セリ

汽船吾妻丸ハ前記沈船利生號ノ沖合約五鍊ニ於テ底觸シ尙附近ニ未知ノ弧立暗礁多數存在スルモノ、

如シト云フ

大鹿島 (Ta lu tau) 燈臺

大鹿島嶼島 (Man tao) (一一一一) 頂上ニ燈臺ヲ設置ス◎白塗圓形鋼鐵造◎群閃白光(毎十秒ニ二閃光)

◎燈高々潮面上二四八呎◎光達二十二哩◎冬季ハ點燈ヲ休止ス

四三六頁

十三行「號」ノ次ニ「(米式)」ヲ加フ

四三七頁

十行至四三八頁十二行ヲ左ノ如ク改ム

西水道 薪島ト大東溝 {Tashanko} トノ約中央ヲ通スル水道ニシテ大連方面ト龍巖浦(或ハ其以北)

トノ間ヲ航行スル小型船舶ノ捷路ニシテ薪島ノ北方約七哩ノ地ヨリ下流ハ大約南西方ニ向ヒ屈曲少ク

水深二米乃至八米ニシテ一般ニ降雨ノ爲水深ニ變化ヲ及ホスコト比較的少シト雖滿洲側本陸及薪島沿

岸ニ布沿スル泥堆ハ闊數哩ニ達シ目標ニ乏シク北方斗流浦附近ハ著シク淺水ニシテ且降雨出水等ニ因ル水深ノ變化甚シキカ故ニ兩三回試航ノ後カ又ハ水先人ヲ傭フニ非サレハ觸堆ノ憂ナシト云フヘカラス○此水道中支那型船ノ最多ク碇泊スルハ薪島ト大東溝トノ間ニテ薪島ヨリ延出スル泥堆ニ接近セル水深四米乃至八米ノ處ニシテ木材等ノ荷役ニハ大ニ便利ナルカ如シ

東水道 磐城列島ヨリ大多沙島(多獅島)錨地ニ至ル間ハ深水ニシテ約北ニ走リ其ヨリ東中洲ノ西側ニ沿ヒ北西及北方ニ走リ水深二米乃至六米アリ

五行六行七行八行ニ於ケル表ヲ左ノ如ク改ム

最近十五年間ニ於ケル結氷期日ヲ表示スレハ左ノ如シ

年次	項	流水初日	結氷初日	翌年結氷終日	流水終日	記	事
一九〇六		十二月五日	十二月廿二日	三月七日	三月二十日		一、流水初日トハ江水ニ氷塊ノ混流ヲ見タル日
一九〇七		十一月廿七日	十二月十四日	二月廿七日	三月廿六日		一、結氷初日トハ江面一帯
一九〇八		十二月三日	十二月十八日	三月廿二日	三月廿七日		

一九〇九		十一月卅日	十二月八日	三月十四日	三月廿三日		凍結セル日
一九一〇		十一月廿九日	十二月八日	三月十六日	三月廿七日		一、結氷終日トハ凝結セル水面カ龜裂流動ヲ始メタル日
一九一一		十二月六日	十二月十七日	三月六日	三月十一日		一、流水終日トハ解ケタル氷塊カ全部流レ終リタル日
一九一二		十一月廿六日	十二月七日	三月十七日	三月廿七日		
一九一三		十一月廿七日	十二月十七日	二月廿八日	三月五日		
一九一四		十一月二十日	十二月八日	四月一日	四月五日		
一九一五		十二月七日	十二月十八日	三月廿六日	三月廿九日		
一九一六		十一月廿八日	十二月廿四日	二月廿五日	三月十八日		
一九一七		十一月廿七日	十二月十一日	三月三日	三月十八日		
一九一八		十一月廿四日	十二月十二日	二月廿七日	三月十七日		
一九一九		十一月廿四日	一月十五日	二月一日	三月廿一日		
一九二〇		十二月五日	十二月八日	二月十二日	三月廿五日		
平均		十一月廿九日	十二月十六日	三月五日	三月廿三日		

潮

鳴綠江水ハ解氷期ヨリ次第ニ上昇シ七月ニ最高トナリソレヨリ次第ニ低下シ結氷期ニ於テ解氷期ト略
 等高トナル而シテ七月ノ江面ハ四月及十一月ノ江面ヨリ高キコト龍岩浦ニ於テ約三呎安東ニ於テ約七
 呎ニ達ス但シ強雨アルトキハ之ヨリモ著シク高キコトアリ江ヲ湖ルニ從ヒテ漲潮時間ハ短縮シ落潮時
 間ハ伸長ス即チ漲潮時間ハ龍巖浦ニ於テ四時五十分三道浪頭ニ於テ四時二十分安東ニ於テ三時五十分
 ナリ潮汐ハ義州ニ於テ消滅スト云フ又潮汐ハ風ノ影響ヲ受クルコト大ナリ
 江口附近ニ於テハ江ヲ湖ル潮流ハ低潮後零乃至一時ヨリ高潮後零乃至一時迄流レ江ヲ下ル潮流ハ高潮
 後零乃至一時ヨリ低潮後零乃至一時迄流ル然レトモ不規則ニシテ且降雨ハ漲潮流ヲ弱メ落潮流ヲ強ム
 狹水道ニ於ケル潮流ハ三乃至四節ニ達シ雨期中増水セルトキニハ落潮流ハ六節ニ達スルコトアリト云
 フ

十二行ノ
次

免許水先人ハ日本人四名ニシテ水路ノ驗測標識ノ設置ヲモ爲ス○此外ニ無免許水先人トシテ支那人數
 名アリ
 各行ヲ左表ノ如ク改ム

行	ヲ	ト	改	ム	
一	馬島	馬鞍島(馬島)	二	二八三呎	七十六米
四	二八八呎	九十二米	五	一五八呎	四十二米
五	築島	柁島 <small>(チユート)</small> (築島)	十	二五二呎	七十四米
十二	一五〇呎	四十二米	十三	四十八呎	二十五米
十三	一七一呎	五十二米	十五	高潮面	平均水面
十五	一六六呎	五十四米			

九行括弧及括弧内ノ記事ヲ削除ス
 各行ヲ左表ノ如ク改ム

行	ヲ	ト	改	ム	
一	十八	十九	五	一六一呎	四十八米
七	Sogumi Rock 腐蝕(Sogumi rock)		七	五十五呎	十三米

八	Kurumi to	雲島(Kurumi to)	八	八十七呎	二十六米
九	壁島	碧島(壁島)	九	五十二呎	十九米
九	Kurumi to	雲島	十一	多獅島	大多沙島(多獅島)
十一	一四四呎	四十米	十一	Kurumi to	雲島
十二	一〇〇呎	三十米	十三	門白	門白島(門白)
十三	五十四呎	十九米	十四	一七二呎	四十四米

十四行ノ次

四四二頁

(九) 三浦塔ハ高六十六米ニシテ龍巖浦ノ西方約六鏈ノ丘上ニ位シ紅色煉瓦造塔ナリ

一行至九行ヲ左ノ如ク改ム

浮標及立標ニ就キテハ東洋燈臺表上卷及海圖ヲ參照スヘシ

四四三頁

一行至六行ヲ左ノ如ク改ム

東水道 磐城列島西側ニ於テ漲潮流(北流)ハ水運島ノ低潮後一時ニ起リ約六時間流レ其最大速力二³/₄節ニ達ス又落潮流(南流)ハ高潮後一時ニ始リ約七時間流レ其最大速力二³/₄節ニ達ス○大多沙島錨地ニ於テハ漲潮流ハ低潮後一時ニ起リ落潮流ハ高潮後約一¹/₂時ニ始リ各約六時間流レ其最大速力前

者ハ二³/₄節後者ハ三節ナリ

西水道 薪島列島附近ニ於テハ落潮流(南西流)ハ水運島ノ高潮後約一時ニ起リ約七時間流レ其最大速力三¹/₂節ニ達シ漲潮流(北東流)ハ低潮後約一¹/₂時ニ起リ約五時間流レ其最大速力三³/₄節ニ達ス○薪島ノ南西方、江口外ニ於テハ漲落兩流ハ水運島ノ低高潮後各約一時ニ起リ其最大速力一³/₄節ナリ
雨期増水中ノ落潮流ハ其速度六節ニ達スルコトアリ
八行ノ括弧及括弧内ノ記事ヲ削除ス

龍巖浦

水運島燈臺ヨリ上流約十九哩、江ノ南岸ニ位ス○濱岸ハ蘆葦ヲ生スル一帯ノ泥堆ナレトモ市街ノ前面ハ巨大ナル杭及板ヲ以テ泥岸ノ崩壞ヲ防キ上陸ニ便ナラシム○此泥堆ハ西ハ斗流浦附近迄沿布シ其間ニ僅ニ一條ノ濬ヲ通ス而シテ此濬ト雖上陸所附近ニ於ケル高潮時水深三¹/₂米ニ過キス故ニ半潮以上ニ非サレハ舟艇ノ達著モ不可能ナリ
斗流浦ハ此附近ニ於ケル常時上陸所ニシテ龍巖浦ノ西方一³/₄哩ニ位ス○斗流浦ト龍巖浦トノ間ニ一條ノ小徑通ス

四四四頁
四行ノ次

流巖浦ハ人口約二、五〇〇ノ小邑ナレトモ帆船ニ依ル多少ノ貿易アリ◎龍川郡廳、警察署、遞信局海
事出張所、郵便局、税關支署等ノ官公衙アリ◎安東トノ間ニハ殆毎日支那民船ノ來往アリ陸上ニハ新
義州及京義線南市驛トノ間ニ自働車ノ便アリ

供給品

多少ノ牛鶏、野菜ヲ得ヘシ◎飲料水ニハ井水ヲ用フルモ良質ナラス

潮

流巖浦附近ノ漲潮流ハ北方ニ、落潮流ハ南方ニ流レ轉流ハ低潮及高潮時後約四十分ニ起リ最大速力前
者ハ三^四/_五節後者ハ三^七/_十節ナリ

氣象

附錄氣象表ヲ參照スヘシ

新義州

六行ノ次

一九一〇年以來ノ開港場ニシテ朝鮮鐵道京義線ノ終點ナリ

市街ハ安東新市街ト相對シ鐵道橋ヲ以テ聯絡ス◎各種官公衙ノ所在地ニシテ人口一三、八〇〇(大正

十年調)アリ主トシテ商業ヲ營ム◎此附近ニ於ケル主ナル産物ハ木材、紙及精米トス

税關支署ノ前ニ棧橋アレトモ干出泥堆存スルタメ高潮時前後ニアラサレハ達着不可能ナリ

日本内地及朝鮮沿岸諸港トノ間ニ不定期航海ニ従事スル汽船四隻帆船二十五隻アリ

鴨綠江鐵橋

新義州ト安東トヲ聯絡スル鐵橋ニシテ長九四二米アリ中央九十一米ハ橋桁ヲ開閉式トシ通常毎日四回

各一時間開キテ船舶ノ航行ニ便ナラシム◎橋上ハ中央ニ鐵道線路ヲ布設シ兩側ニ各二^七/_十米ノ人道ヲ設

ク◎橋梁ノ下面ハ平均水面上十米アリ◎橋ノ兩端ニ税關派出所、守備隊營所及警官派出所アリ

開橋時刻左ノ如シ

午前 四^七/_十時至五^七/_十時、八^七/_十時至九^七/_十時

午後 〇^七/_十時至一^七/_十時、四時至五時

天候ノ都合ニテ開放セサル時ハ橋上ニ上半赤、下半綠ノ燕尾旗ヲ掲ク

目標

府ノ北東方約^七/_十哩ニ製紙會社アリ其灰白色煙突ハ高五十七米アリ附近平野中ニ聳立シ頗ル顯著ナリ

七行至四四五頁二行ヲ左ノ如ク改ム

安東

新義州ノ對岸三道浪頭ノ上流約六哩ニ位スル條約港ニシテ南滿鐵道安奉線ノ終點ヲ成シ滿洲側ニ於ケル最樞要ノ市街ナリ◎人口六五、〇〇〇ヲ包有スル一大港市安東縣（一名沙河鎮）ノ南西方河岸ニ沿ヒ鐵道線路ヲ略中央ニ挾ミ長約二哩幅約一¹/₂哩ノ鐵道附屬地ヲ設定シ日本ノ行政管下ニ置カル◎附屬地中鐵道以東ノ區劃ニ日本新市街アリ之ヲ支那街安東縣ト合シテ一般ニ安東ト竝稱セラル◎附屬地内ノ人口ハ約三四、〇〇〇（大正十年調）アリ内日本人約一二、三〇〇（内地人九、一〇〇）朝鮮人三、二〇〇）支那人約二二、〇〇〇外國人十六名ナリ

附屬地内ニ日本領事館、米國領事館アリ

上流小沙河ヨリ六道溝迄ヲ港域トシ其ヨリ三道浪頭迄ヲ外港トシ支那領水内碇泊船舶ニ對シ安東海關ニ於テ課稅ス

上陸所

鐵橋ノ上流海關ノ前ニ棧橋アリ一般ノ上陸所タリ然レトモ江岸一帶ニ水深ク木造護岸ノ設アリテ到ル

所上陸シ得ヘシ

荷役設備

滿鐵埠頭ニハ倉庫若干及三噸起重機一臺アリ滿鐵引込線アリテ貨物積卸シニ便ナリ又舢舨多數アリ

潮流

夏季ノ驗測ニ依レハ鐵橋ノ下流新義州ト安東トノ間ニ於テ漲潮流（北流）ハ安東ノ低潮後一¹/₂時ニ起リ約二¹/₂時間流レ落潮流ハ高潮後約一¹/₂時ニ起リ約十時間流ル其最大速力前者ハ約二節後者ハ二³/₄節ナリ◎三道浪頭附近ニ於テハ漲潮流ハ三節、落潮流ハ三¹/₄節ニ達ス

採木公司ニ於テ研究セル所ヲ掲記セハ左ノ如シ

安東ニ於ケル一ケ月中ノ最大潮ハ三日ト十八日トニシテ最小潮ハ十日ト二十五日トナリ◎高潮時ハ一日ニ四十八分宛後ル、ヲ原則トス但風候ニ依リ多少ノ差アリ◎春分秋分ノ頃ハ晝夜ニ依リ潮升ノ不等無シト雖夏季ハ晝潮著シク大ニ、夜潮小ナリ冬季ハ全ク之ニ反ス◎潮ノ影響ハ普通沙河鎮迄ナルモ大潮ノ時ハ尙上流ニ及フコトアリ

流筏

春期解氷後江ノ上流地方ヨリ流下スル筏ハ夥シキ數ニ上リ支那街前面ニ於テハ殆ト江ニ充ツルコトアリ此等ハ安東、新義州方面ニ陸揚セラレ又ハ三道浪頭迄下リテ船積セラル此附近航海者ハ注意ヲ要ス供給品

石炭其ノ他各種ノ供給品ヲ得ヘシ水道設備アリ

商業

安東ニ於ケル最近三箇年間ノ貿易左ノ如シ

- 大正十一年 七〇、九六一、二七七兩
- 同 十二年 八七、一八六、〇三三兩
- 同 十三年 六五、六四九、二五九兩
- 同 十四年 八五、二五二、六九四兩

右ノ如ク大正十三年ハ前年ニ比シ二一、五三六、七七四兩ノ大激減ナリシモ是主トシテ奉直戰亂ノ影響ニシテ一般トシテ當地ハ北滿洲、朝鮮北部方面ニ對スル貨物ノ集散地ナルヲ以テ商業貿易ハ逐年繁榮ニ向ヒツ、アリ◎安東ノ貿易ハ海陸二途ヲ有シ海路ニ依ルモノハ鴨綠江水深淺ク下流約五浬ノ三道

浪頭ヨリ積荷セラレ其ノ間ノ出費多額ヲ要シ一部豆粕雜穀類ノ輸出セラル、ニ過キスシテ不振ナルニ反シ鐵路ニ依ルモノハ三分一減稅ノ特典等モアリ貿易ノ大部分ハ鐵路ニ依ル◎安東貿易ハ輸出入共主トシテ日本内地及朝鮮ヲ對手トシ其ノ他ノ諸國トハ支那各港ヲ經由シ間接ニ行ハル◎輸移出品ノ主ナルモノハ豆粕、柞蠶絲、木材、石炭、大豆等ニシテ輸移入品ノ主ナルモノハ布類、綿絲、毛織物、靴、米等ナリ

大正九年ノ入港汽船ハ三二二隻總噸數一八一、一八〇噸ナリ

交通

京義鐵道ト安奉鐵道トノ連絡點ヲ成ス◎陸路ハ各地ニ通スレトモ惡路ニシテ行通不便ナリ然レトモ冬季結氷中ハ江上ノ氷上交通ト相俟チテ却ツテ活潑トナルト云フ海上交通ハ甚頻繁ニシテ其主ナルモノ左ノ如シ

會社名	船數	定期回数	行先	記事
大連汽船會社	六	月六回	大連、天津、芝罘	
朝鮮郵船會社	六	月三回	芝罘、大連、青島	朝鮮西岸各港、門司、神戸、大阪、名古屋、橫濱ニ至ル臨時航アリ

鴨綠江輪船公司 三 月九回 上流
 政記公司 隔日 大連、芝罘
 人和公司 月四回 大連、龍口、芝罘

右ノ外大華洋行、怡和洋行ノ臨時航海アリ前者ハ門司、神戸、大阪ニ、後者ハ上海、汕頭ニ至ル標準時

新義州ニ於テハ中央標準時ヲ用ヒ安東ニ於テハ西部標準時ヲ用フ
 大連、芝罘、天津、牛莊各地ニ於ケル氣象表ヲ改メ新ニ龍巖浦、旅順、青島ノ分ヲ加フルコト左ノ如シ

(左表ハ總テ大正十三年十二月中央氣象臺發行ノ本邦氣候表ヨリ拔萃セリ、但シ風速ニ關シテハ最近ノ改正ニ據リ該表ノ數(風速計指示數)ノ七割ヲ記載セリ、隨ツテ風速十^米/_秒以上ノ暴風日數モ改正セラルベキナレトモ左表ニハ暫ク舊法其儘ノモノヲ記載セリ)

氣象表 大連測候所 (19年間)

月	平均氣壓	氣溫		濕度	降水	風	天氣				雪	初	季	節	
		平均	最高最低				快晴	曇	降水	霧					雪
1	770.9	-5.1	-1.1 -9.0	65.5	12.9	N	19.0	14.8	4.3	4.5	0.7	6.9			
2	769.4	-3.5	0.4 -7.2	63.6	9.6	N	16.7	12.9	3.8	2.9	1.2	3.9			平均 3月28日
3	766.8	1.9	6.0 -1.7	59.8	19.3	N	21.4	10.6	6.6	4.2	2.3	3.7			最晩 明治41年4月24日
4	762.2	9.2	14.1 5.0	57.7	24.6	S	22.8	8.5	7.9	4.9	2.7	0.3			
5	758.0	15.2	20.0 11.0	60.6	46.6	S	23.1	6.4	7.7	6.7	3.3	—			
6	754.5	20.2	24.8 16.4	70.8	49.9	S	17.4	5.2	8.8	8.1	4.8	—			
7	754.2	23.6	27.2 20.6	82.6	171.1	S	13.9	3.3	12.9	11.3	5.9	—			
8	755.5	24.6	28.2 21.5	79.8	111.3	S	9.1	5.0	9.2	10.4	0.8	—			
9	761.0	19.7	23.8 16.0	69.9	112.7	N	13.5	8.9	7.6	7.3	0.1	—			
10	765.2	13.8	18.3 9.7	64.4	29.7	N	16.8	12.6	4.1	6.3	—	0.1			
11	768.6	4.9	9.1 0.7	61.4	25.4	N	20.2	11.4	4.8	5.9	0.1	4.1			
12	770.3	-1.8	2.1 -5.9	61.2	10.5	N	19.4	14.0	3.4	4.7	0.3	6.2			
全年	763.1	10.2	14.4 6.4	66.4	623.6	N	213.4	113.7	81.2	77.4	22.2	25.2			

備考—1. 氣溫ノ高低極及起日 高極 35.7 大正 9年 6月30日
 低極 -19.4 大正 11年 1月16日
 2. 最大風速及起日 27.9 大正 8年 12月28日
 3. 本表ノ暴風ノ風速計指示 10 米/秒以上ヲ云フ
 4. 本表ノ天氣日數ノ降水ハ 1 日中ノ降水量0.1耗以上ニ及ビシ日
 快晴ハ雲量²/₁₀未滿ノ日・曇ハ雲量⁸/₁₀以上ノ日ヲ云フ

氣象表 芝罘測候所 (19年間)

月	平均氣壓	氣溫		濕度 百分率	降水量		風		天氣日數					雪 初	季節 終	
		平均	最高最低		總量	最大量	平均速度	暴風日數	快晴	曇	降水	霧	雪			
1	770.6	-1.6	1.4	69.7	15.1	25.5	N	5.7	20.3	9.2	8.3	7.6	1.0	10.5		
2	769.3	-0.8	2.7	66.9	10.7	25.4	N	5.5	18.0	8.7	5.9	3.8	0.7	5.8		
3	766.8	3.8	8.1	63.2	15.8	25.9	N	5.1	19.7	9.5	7.3	5.0	2.1	2.8		平均 3月24日
4	762.3	10.6	15.9	61.7	23.5	38.2	S	4.5	18.8	8.3	7.0	5.3	2.3	0.3		最晩 大正8年5月2日
5	758.1	16.7	22.1	63.8	40.0	36.1	S	4.3	19.5	7.3	7.8	6.2	1.7	0.1		
6	754.5	21.3	26.2	72.4	52.0	65.0	S	3.4	12.7	5.1	8.7	7.9	1.4	—		
7	754.1	24.3	28.3	82.6	150.1	97.8	S	2.9	8.1	4.1	12.3	12.8	2.4	—		
8	755.4	25.0	28.6	82.4	119.5	82.9	S	3.1	9.2	5.8	9.1	11.2	0.4	—		
9	761.0	20.8	24.4	76.8	92.5	191.2	N	4.3	14.4	7.8	9.5	7.7	0.2	—		
10	765.2	15.6	19.8	67.4	25.8	33.0	N	4.8	17.8	10.5	5.4	5.6	0.6	—		
11	768.4	7.6	11.4	66.0	33.0	50.6	N	6.0	20.7	9.5	6.9	6.9	0.2	4.1		最晩 明治38年11月2日 11月13日
12	770.2	1.1	4.6	66.5	20.3	28.4	W	5.9	21.2	7.8	8.9	7.7	0.2	9.8		
全年	763.0	12.0	16.1	69.6	598.3	191.2	S	4.6	200.3	93.5	97.2	87.7	13.1	33.3		

備考——1. 氣溫ノ高低極及起日 { 高極 39.5 明治42年5月29日
低極 -14.0 大正4年1月12日 }
2. 最大風速及起日 { 27.6 明治43年1月29日 }
3. 本表ノ暴風ハ風速計指示10米/秒以上ヲ云フ
4. 本表ノ天氣日數ノ降水ハ1日中ノ降水量0.1毫米以上ニ及ビシ日
快晴ハ雲量²/₁₀未満ノ日・曇ハ雲量⁸/₁₀以上ノ日ヲ云フ

氣象表 天津測候所 (19年間)

月	平均氣壓	氣溫		濕度 百分率	降水量		風		天氣日數					雪 初	季節 終	
		平均	最高最低		總量	最大量	最方向	平均速度	暴風日數	快晴	曇	降水	霧			雪
1	771.8	-4.2	0.8	60.7	4.1	16.3	NNW	2.2	4.3	15.3	4.1	2.6	1.7	4.6		
2	769.9	-1.8	3.7	56.7	3.0	12.6	N	2.5	5.3	14.5	3.7	2.2	1.1	2.6		
3	766.5	4.7	10.8	55.0	11.8	34.9	SE	2.9	6.8	12.7	4.9	3.2	0.2	2.3		平均 3月22日
4	761.6	12.9	19.8	51.9	13.3	20.2	SE	3.2	8.4	9.8	5.9	3.4	0.1	0.1		
5	757.3	19.4	26.7	53.5	29.7	48.3	SE	3.1	7.8	9.9	5.1	5.7	0.3	0.1		最晩 大正8年5月11日
6	753.5	24.1	30.8	63.0	66.9	78.6	SE	2.7	4.4	6.9	7.3	8.8	0.2	—		
7	753.2	26.5	32.1	74.4	167.7	121.2	SE	2.2	1.9	5.3	8.5	13.2	0.1	—		
8	755.3	25.8	30.7	76.0	139.0	124.3	SE	1.8	0.8	6.6	7.4	11.2	0.3	—		
9	761.3	20.6	26.0	68.6	47.5	58.6	S	2.1	2.0	10.7	5.5	6.5	0.6	—		
10	765.4	14.1	19.8	64.1	17.8	31.9	SW	2.4	3.8	15.9	3.9	4.7	0.7	—		
11	769.2	4.5	9.6	60.2	11.8	28.8	N	2.5	5.7	16.2	2.9	2.7	0.8	1.2		最晩 大正8年11月7日
12	771.2	-2.2	2.6	57.2	3.5	8.8	N	2.4	5.7	17.8	2.6	1.9	0.8	2.6		平均 12月1日
全年	763.0	12.0	17.8	61.9	516.0	124.3	SE	2.5	57.0	141.6	61.8	66.1	6.8	13.5		

備考——1. 氣溫ノ高低極及起日 { 高極 42.9 大正11年7月10日
低極 -18.8 大正5年12月25日 }
2. 最大風速及起日 { 16.7 明治41年4月24日 }
3. 本表ノ暴風ハ風速計指示10米/秒以上ヲ云フ
4. 本表ノ天氣日數ノ降水ハ1日中ノ降水量0.1毫米以上ニ及ビシ日
快晴ハ雲量²/₁₀未満ノ日・曇ハ雲量⁸/₁₀以上ノ日ヲ云フ

氣象表 牛莊(營口)測候所 (19年間)

月	平均氣壓	氣溫		濕度	降水	風速	天氣		雪	季節				
		平均	最高最低				曇	降水						
1	771.2	-9.6	-4.5	66.6	7.8	3.9	14.1	17.5	2.7	3.6	0.4	5.4		
2	769.5	-7.3	-1.6	-12.2	63.1	3.9	12.6	14.9	2.8	2.9	0.7	4.3		
3	766.5	-0.2	5.0	-5.1	59.1	4.8	19.0	11.8	4.9	5.0	0.1	4.3		最遲 明治33年1月28日 平均 4月1日
4	761.7	8.7	14.2	3.0	25.2	5.0	21.1	8.0	6.4	5.4	0.3	0.9		
5	757.2	15.4	21.2	10.1	55.9	4.8	20.0	6.5	6.7	9.2	0.2	—		
6	753.8	21.2	26.1	16.2	64.1	4.1	14.2	5.0	7.8	10.3	0.2	—		
7	753.7	24.7	28.9	20.4	68.3	3.5	10.1	4.8	10.3	12.4	0.2	—		
8	755.3	24.3	28.8	20.0	76.3	2.9	5.7	6.4	7.9	11.4	0.1	—		
9	760.9	18.0	23.4	12.6	83.0	3.4	9.9	10.3	5.6	8.1	0.3	—		
10	764.9	10.9	16.4	5.4	44.6	4.1	15.2	13.8	3.7	6.6	0.6	0.7		最遲 明治39年10月1日 平均 11月3日
11	768.7	0.6	5.6	-4.5	64.9	4.3	16.7	14.3	3.3	4.8	0.2	3.2		
12	770.4	-7.0	-1.8	-12.4	63.7	3.8	12.8	17.1	2.2	3.3	0.3	3.8		
全年	762.8	8.3	13.5	3.2	65.9	4.0	171.3	129.8	64.6	83.0	3.5	22.6		

備考—1. 氣溫ノ高低極及起日 { 高極 36.9 大正 8年 8月 5日
低極 -31.0 大正 9年 11月 10日 }
2. 最大風速及起日 { 高極 40 大正 11年 11月 6日
低極 23.5 明治 40年 11月 6日 }
3. 本表ノ暴風ハ風速計指示 10 米/秒以上ヲ云フ
4. 本表ノ天氣日數ノ降水ハ 1 日中ノ降水量 0.1 耗以上ニ及ビシ日
快晴ハ雲量 2/10 未満ノ日・曇ハ雲量 3/10 以上ノ日ヲ云フ

氣象表 龍巖浦測候所 (19年間)

月	平均氣壓	氣溫		濕度	降水	風速	天氣		雪	季節				
		平均	最高最低				曇	降水						
1	770.1	-8.9	-3.8	-13.5	70.8	3.6	9.4	14.6	3.8	5.1	0.4	6.2		
2	768.6	-6.1	-1.0	-10.8	69.7	3.4	8.4	12.9	4.5	4.4	0.9	4.9		
3	766.2	0.2	4.8	-3.8	63.5	3.7	12.4	10.1	6.1	6.4	1.8	3.9		平均 3月25日
4	762.0	7.8	12.7	3.3	70.2	3.9	14.6	6.9	7.7	7.4	1.8	0.5		
5	758.2	13.9	18.7	9.5	73.3	4.0	15.7	4.8	9.3	10.1	2.0	0.1		最遲 大正8年6月2日
6	754.9	19.1	23.4	15.5	81.0	3.5	9.9	3.6	11.8	11.5	2.7	—		
7	754.8	22.9	26.6	20.1	86.4	3.4	7.6	1.9	16.1	15.5	3.9	—		
8	755.7	23.7	27.8	20.2	84.1	2.9	5.2	4.0	12.0	12.0	2.1	—		
9	760.7	18.0	23.2	13.4	78.0	3.2	7.6	8.2	7.9	8.7	0.6	—		
10	764.8	11.6	17.2	6.7	75.0	3.4	9.3	11.3	4.1	7.5	1.2	0.1		最遲 大正11年10月23日 平均 11月12日
11	768.1	1.4	6.1	-2.5	69.0	3.7	11.3	11.4	4.2	6.6	0.7	3.1		
12	769.6	-6.4	-1.8	-10.6	69.9	3.4	9.2	14.5	3.9	5.2	0.7	6.1		
全年	762.8	8.1	12.8	4.0	74.8	3.5	120.7	104.1	91.4	100.2	18.7	24.8		

備考—1. 氣溫ノ高極極及起日 { 高極 35.0 大正 8年 8月 1日
低極 -27.2 大正 11年 1月 20日 }
2. 最大風速及起日 { 高極 44 大正 11年 4月 19日
低極 21.6 明治 44年 4月 19日 }
3. 本表ノ暴風ハ風速計指示 10 米/秒以上ヲ云フ
4. 本表ノ天氣日數ノ降水ハ 1 日中ノ降水量 0.1 耗以上ニ及ビシ日
快晴ハ雲量 2/10 未満ノ日・曇ハ雲量 3/10 以上ノ日ヲ云フ

氣象表 旅順測候所 (18年間)

月	平均氣壓	氣溫		濕度	降水	風		天氣日數					雪	雪初	季節終	
		平均	最高最低			平均	暴日數	快晴	曇	降水	霧	雪				
1	770.8	-4.5	-0.6 -8.6	65.5	10.1	14.4	N	4.4	16.9	13.5	4.8	5.9	0.3	8.1		
2	769.2	-3.0	1.0 -7.1	64.4	8.3	31.5	N	4.3	13.7	12.1	3.4	2.9	1.4	4.1		
3	766.6	1.7	5.9 -2.1	62.8	15.6	52.8	N	4.6	16.6	11.1	5.7	3.8	1.8	3.3		平均 3月26日
4	762.1	8.6	13.8 4.3	62.0	19.2	47.6	SE	4.4	16.1	8.8	5.8	4.1	2.3	0.3		最晩 44年4月19日
5	758.0	14.3	19.6 10.1	67.0	42.4	49.7	SE	4.2	14.3	7.2	7.2	6.3	3.3			
6	754.4	19.3	24.3 15.6	77.1	41.2	62.5	SE	3.4	7.7	5.2	8.7	7.6	4.2			
7	754.1	23.0	27.2 20.0	87.4	159.7	166.8	SE	3.0	5.7	3.2	12.1	10.8	5.9			
8	755.4	24.1	28.2 21.1	84.5	127.2	138.2	SE	2.9	4.4	5.2	9.2	9.6	0.8			
9	761.0	19.6	24.1 16.1	73.5	101.9	138.2	N	3.3	8.5	8.7	7.0	7.2	0.3			
10	765.1	14.1	18.8 10.0	68.5	24.9	39.8	N	3.7	13.1	12.1	3.6	5.7	0.2	0.1		
11	768.3	5.5	9.9 1.1	63.7	27.9	68.0	N	4.6	17.4	9.4	5.1	6.2	0.3	4.9		平均 11月7日
12	770.0	-1.0	2.8 -5.3	62.8	9.5	13.3	NNE	4.5	15.9	11.1	3.7	5.3	0.3	8.3		
全年	762.9	10.1	14.6 6.3	70.0	588.0	166.8	N	3.9	149.6	107.4	76.3	75.6	21.4	29.1		

備考—1. 氣溫ノ高低極及起日 (高極 35.4 大正 8年 8月 6日 低極 -19.3 大正 4年 1月 7日)
 2. 最大風速及起日 (明治 45年 3月 20日)
 3. 本表ノ暴風ハ風速計指示ノ10米/秒以上ヲ云フ
 4. 本表ノ天氣日數ノ降水ハ1日中ノ降水量0.1以上ニ及ビシ日 曇ハ雲量⁸/₁₀以上ノ日ヲ云フ 快晴ハ雲量²/₁₀未滿ノ日 曇ハ雲量⁸/₁₀以上ノ日ヲ云フ

氣象表 青島測候所 (8年間)

月	平均氣壓	氣溫		濕度	降水	風		天氣日數					雪	雪初	季節終	
		平均	最高最低			平均	暴日數	快晴	曇	降水	霧	雪				
1	771.6	-2.1	1.7 -5.4	66.2	8.3	11.3	N	4.7	16.3	13.1	6.5	4.4	1.6	5.5		
2	769.2	-0.1	3.9 -3.3	67.2	8.4	8.2	N	4.4	14.6	7.6	7.9	3.5	3.4	4.4		
3	766.8	4.2	8.5 *1.0	68.9	15.0	22.5	S	5.0	18.4	7.1	10.1	4.5	4.1	1.6		最晩 大正10年3月27日 平均 3月14日
4	762.1	10.1	14.8 6.9	69.5	29.0	43.7	S	5.0	20.4	5.8	10.1	5.5	5.5			
5	758.1	15.4	20.0 12.0	73.3	28.2	31.7	SSE	4.8	19.9	4.4	9.9	7.8	7.8			
6	754.5	19.5	23.3 16.9	82.3	80.7	93.8	SSE	4.5	16.8	3.4	13.8	8.8	11.1			
7	754.4	23.5	26.8 21.5	88.8	96.1	66.7	SSE	4.2	11.6	2.5	17.1	12.6	11.4			
8	755.1	25.3	28.7 22.8	83.2	136.4	101.2	SSE	4.0	9.4	4.1	12.0	11.3	1.9			
9	760.8	20.8	24.6 17.7	73.6	92.8	151.2	N	4.1	12.4	7.1	10.0	7.5	0.4			
10	765.1	15.9	20.2 12.4	65.4	12.0	18.3	S	4.3	13.9	11.5	5.6	2.8	0.8			
11	768.5	8.0	12.0 4.4	63.9	17.1	31.4	N	4.8	17.4	12.0	5.1	4.3	1.0	0.8		
12	770.7	1.0	4.6 -2.1	63.6	15.9	20.4	N	4.8	16.9	11.0	6.8	4.4	1.1	3.3		
全年	763.1	11.8	8.7 72.3	72.3	539.9	151.2	SSE	4.6	187.8	89.6	114.9	77.1	50.1	15.4		平均 12月5日 最晩 大正10年11月10日

備考—1. 氣溫ノ高低極及起日 (高極 35.4 大正 8年 8月 4日 低極 -15.4 大正 6年 1月 7日)
 2. 最大風速及起日 (明治 45年 3月 20日)
 3. 本表ノ暴風ハ風速計指示ノ10米/秒以上ヲ云フ
 4. 本表ノ天氣日數ノ降水ハ1日中ノ降水量0.1以上ニ及ビシ日 曇ハ雲量⁸/₁₀未滿ノ日 曇ハ雲量⁸/₁₀以上ノ日ヲ云フ 快晴ハ雲量²/₁₀未滿ノ日 曇ハ雲量⁸/₁₀以上ノ日ヲ云フ

大正十五年十二月十七日印刷
大正十五年十二月二十日發行

定價金六拾錢

發行者
印刷者

東京市京橋區築地四丁目
東京市牛込區市谷加賀町一丁目
水部
秀英舍

販賣所

東京市麴町區永樂町一丁目一番地
橫濱市海岸通り四丁目十八番地
神戸市海岸通り一丁目十番地
長崎市梅香崎町三番地
函館市船場町十九番地
大阪市西區川口町二十六番地
門司市濱町六番地
臺灣基隆字營仔寮百二番地ノ一
朝鮮釜山佐藤町六番地(朝鮮郵船釜山支店內)
支那上海北揚子路第三番戶
神戸市明石町三十二番地

日本郵船株式會社
同 橫濱支店
同 神戸支店
同 長崎支店
同 函館支店
同 大阪支店
同 門司支店
同 基隆支店
同 釜山代理店
同 上海支店
日本船主協會

